

ナンバリングコード M2NRS-ACBM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 960003) 看護教育学 Nursing Education	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ACBM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 清水 裕子, 渡邊 久美, 芳我 ちより	関連授業科目	看護研究方法論 看護倫理学	
	履修推奨科目	看護研究方法論 看護倫理学	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 看護学教育の概要を学び、看護教育学研究の課題について研究する。教育の基本要素である目標、計画、評価と、看護教育の特徴である講義から臨床教育までの実施方法を理解する。また、PBL (Problem based learning)、TBL(Team based learning)、Simulated Patient、OSCEを実際に体験し、方法を理解する。			
授業の目的 本授業は、医療機関などにおいて学生や現任者に指導・助言する立場にある看護師・保健師・助産師、養護教諭あるいは看護学の教育研究活動に従事するための基礎となる学科目であり、院生が、それぞれの現場で教育的役割を果たすための意義や方法を学ぶことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 看護学および看護教育学の歴史を概観し、説明できる。 2. 看護学における教育制度・課程、教育評価、指導者養成、生涯教育などについて、概要を説明できる。 3. 看護実践の現場における現任者と実習生に対する 教育的役割の課題と方法が説明できる。 4. 現状の看護の臨床および教育現場に対する問題解決方法を説明できる。			
成績評価の方法と基準 参加度、取り組み態度、プレゼンテーションなど総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業計画			
第1回	ガイダンス・日本の看護教育制度・教育課程と教育研究者養成	芳我 (清水・渡邊)	
第2回	看護学教育方法―講義と演習	芳我	
第3回	看護学教育方法―実習計画と実習指導	芳我	
第4回	看護教育学研究	芳我	
第5回	問題基盤型学習(Problem Based Learning)	渡邊	
第6回	PBL演習、実習とグループ学習	渡邊	
第7回	看護継続教育における学習ニーズ	渡邊	
第8回	組織における教育としてのFaculty Development :FD	渡邊	
第9回	看護における評価―学習と臨床の場において	清水	
第10回	シミュレーション学習の活用方法	清水	
第11回	模擬患者 (SP:Simulated Patient) 養成と活用	清水	
第12回	チーム基盤型学習 (Team Based Learning)	清水	
第13回	臨床看護実践能力試験 (OSCE : Objective Structured Clinical Examination) の実施方法	清水	
第14回	OSCE演習とリフレクション	清水	
第15回	看護学における教育的課題	清水	
【自己学習へのアドバイス】			
院生各自がレジュメを準備し、討論形式で行う場合と演習を行う場合がある。			
教科書・参考書等 杉森みどり・舟島なをみ編著 (2021) 看護教育学 最新版、医学書院 安永 悟著 (2012) 活動性を高める授業づくり、医学書院 糸賀暢子他著 (2017) 看護教育のためのパフォーマンス評価、医学書院 五十嵐ゆかり編 (2016) 看護にTBL、医学書院 P. J. ブリンク・M. J. ウッド著、小玉香津子他訳 (1999) , 「看護研究計画書作成のステップ」日本看護協会出版会、3,630円、書籍部にて購入 ポーリット・ハングレー著、近藤潤子他訳 (1994)、看護研究原理と方法、医学書院、11,807円			
オフィスアワー 授業日の午後			

メールで対応する

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各自の進行状況に応じて、相談に応じます。

ナンバリングコード M2NRS-ACBM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 960004) 看護管理学 Nursing Management	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ACBM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 川田 紀美子, 前川 泰子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分(講義+演習)×15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 看護管理に必要な知識体系について実践と関連づけて講義するとともに、看護サービスの質向上や安全管理、効率的で効果的な看護管理について解説する。			
授業の目的 看護管理に必要な知識体系について、各自の実践現場と関連づけて理解するとともに、看護サービスの質向上や安全管理、効率的で効果的な看護管理が実践できるように演習を通して理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 組織とは、看護組織論について説明することができる。 2) 看護サービスと資源のマネジメントについて具体的に述べるすることができる。 3) リスクマネジメントと医療安全について説明することができる。 4) 看護管理者論とこれからの看護管理のあり方について述べるすることができる。 (DPの「専門知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法と基準 1. 課題に対する討議内容と参加度 (20%) 2. 選択したテーマに応じたプレゼンテーション資料作成と発表内容 (50%) 3. 最終課題レポート (30%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 講義形式と適宜課題のプレゼンテーションを取り入れて展開します。			
第1回 ガイダンス (川田・前川) 第2回 実践における看護管理の実際 (非常勤講師) 第3・4回 看護管理の実際を元に各々のテーマのプレゼンとディスカッション(非常勤・前川) 第5回 看護における人材育成・キャリア開発 (前川) 第6回 リフレクションを活用した教育支援について (前川) 第7回 医療施設における経営管理の実際 (非常勤・川田) 第8回 ファシリテーション演習 (前川) 第9回 医療安全における他職種との連携 (非常勤) 第10回 「看護管理」に関する文献発表① (川田) 第11回 「看護管理」に関する文献発表② (川田) 第12回 管理の基本概念・管理の概念 (非常勤・川田) 第13回 病院における業務管理の実際 (非常勤・川田) 第14回 「看護管理」に関する文献発表③ (川田) 第15回 「看護管理」に関する文献発表④ (川田)			
【授業および学修の方法】 講義を中心に進めるが、内容に応じて受講者の理解を深めるために発表・討議を取り入れる。また、選択した課題について、グループで深めた内容を発表し全体で討論する。さらに課題を基に各自でレポートにまとめる。 【自学自習のためのアドバイス】 受講者がこれまで経験してきた職場管理の視点から、現在の各職場の問題や課題について、看護管理の視点から改めて見直しまとめておく。それらから、実際に起こっている問題は何か、解決するにはどのようなことが必要かを検討する。			
教科書・参考書等 参考書 P.ハーシィ, K・H・ブランチャード, D・E・ジョンソン/山本成二, 山本あづさ訳(2013):行動科学の展開 新版 人的資源の活用, 生産性出版			
オフィスアワー 随時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 問題意識をもって、主体的に受講することを期待します。			

ナンバリングコード MINRS-ABXM-40-Mg2 授業科目名 (時間割コード： 960005) 臨床科学 Clinical Science Clinical Science	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 MINRS	DP・提供部局 ABXM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Mg	単位数 2	
担当教員名 塩田 敦子, 藤井 豊, 筒井 邦彦	関連授業科目	看護医科学特論	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 近年の医学の進歩は目覚ましく、遺伝子医学、再生医学や生殖医学に代表される新たな道を歩みつつある。臨床科学の講義では、担当教員の専門領域である漢方医学、消化器病学、ウイルス学の分野における最新トピックスを紹介するとともに、看護職が看護ケアを実践し看護研究を進めていく上で必要な種々の疾患の病態生理、診断、薬理を含む治療に関する最新の医学情報を提供し、討論、実習を行う。			
授業の目的 目覚ましく進歩・発展を遂げる医学を理解するためには、医学を支えるものの考え方と、その基礎に立脚した医学研究の進め方を学ぶことが大切である。漢方医学、消化器学、ウイルス学の各分野の疾患及びその研究事例を通して、医学における科学的ものの考え方、研究の進め方を身につけ (a, b)、的確な看護実践に役立てることを目標とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 主な漢方薬の作用、機序、適応、有害事象及び看護援助を説明できる。 2) 漢方の考え方、アセスメントの方法、言葉の力を看護実践に活かせる。 3) 最新の消化器病学の知見の理解を促す。 4) ウイルスとは何かを説明できる。 5) ワクチンによる予防のメカニズムを説明できる。 6) 様々なウイルス感染症を説明できる。 7) 研究に必要な情報セキュリティについて説明できる。			
成績評価の方法と基準 授業への貢献、参加態度、レポートから総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
1回	漢方医学① 漢方の歴史と理論、病態把握の方法	塩田	
2回	漢方医学② 漢方の診察法(舌診、腹診など)、煎じ	塩田	
3回	漢方医学③ 漢方の臨床 冷え・高齢者・女性・ストレスと漢方	塩田	
4回	漢方医学④ 漢方の臨床 フィジカルアセスメントと方剤の選択	塩田	
5回	漢方医学⑤ 鍼灸・ツボ 経絡、経穴の理論と実際、養生	塩田	
6回	(未定)	新准教授	
7回	(未定)	新准教授	
8回	(未定)	新准教授	
9回	(未定)	新准教授	
10回	(未定)	新准教授	
11回	ウイルスとは何か	藤井	
12回	ウイルスのライフサイクル	藤井	
13回	ワクチンによる予防	藤井	
14回	様々なウイルス感染症1 (インフルエンザ)	藤井	
15回	様々なウイルス感染症2 (エマージングウイルス)	藤井	
【自学自習に関するアドバイス】 上記の内容について、分かる範囲で、各回前に事前にインターネット、資料等で大まかに調べておくことが望ましい。また各教員が連続して講義を行うため、各回終了後に内容の復習すること。			
教科書・参考書等 参考書(購入は必須ではない) 絵でみる和漢診療学(JJNブックス)、寺澤捷年、医学書院、1996、2640円 (購入は必須ではありませんが、参考にするとわかりやすいと思います) 絵でみる指圧・マッサージ(JJNブックス)、寺澤捷年/津田昌樹、医学書院、2002、2640円 (購入は必須ではありませんが、参考にするとわかりやすいと思います) 医科ウイルス学、高田賢蔵著、南江堂、2009、9180円 (詳しく勉強したい人のための参考書)			

オフィスアワー 月曜日、木曜日午後 6 時以後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義日程は、社会人院生が履修しやすいように、土、日を基本としますが、随時相談に応じます。

ナンバリングコード MINRS-acdM-40-Pf2 授業科目名 (時間割コード： 960006) 国際看護学特論 Global Nursing Theories International Exchange Activities	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 MINRS	DP・提供部局 acdM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Pf	単位数 2	
担当教員名 山本 美輪	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 事前準備 + 派遣先での研修 + 報告会 + 自学自習30時間 (事前の英語学習、実習内容に関する予習、派遣後の振り返り) + その他、国際交流にかかわる活動 (受け入れ学生との論議への参加等)			
<b>授業の概要</b> 香川大学医学部の国際交流の理念は、『国際交流をとおして、グローバルスタンダードを有した「学生」「医師」「看護師」「研究者」の育成を行うとともに、人類の福祉や地域への貢献を行う。』としている。この理念のもとに、全学年を通して、学生には様々な国際交流活動に参加する機会が与えられている。こうした活動に積極的に参加することで、国際的感覚を涵養し、国際社会の一員としての自覚に目覚めることは、これからのグローバル社会において重要であり、医学・看護学の面でもグローバルスタンダードを自覚するためのまたとないチャンスである。本プログラムでは、①事前の十分な準備を行うこと、②実習を自主的かつ勤勉に行うこと、③報告書を提出すること、④報告会において発表すること、を求めている。対象となる活動は、香川大学医学部が交流をしている協定校において開設されるプログラムに参加するものに限る。それぞれのプログラムについては、活動の時期、内容、定員が異なるため、それらに対応する準備や勉強が求められる。いずれのプログラムにおいても、語学(英語)は重要であり、一定程度の語学力が求められる。語学プログラム(上級英語など)への参加が望ましい。なお、国際交流委員会の議を経て、海外派遣と同等の教育効果を有する活動を含める場合がある。			
<b>授業の目的</b> 学生の間には、海外での経験を積むことにより、世界に通用する広い視野を獲得する。また他国での医学や看護学の状況を見聞することで日本の医学や看護学について考える機会を得る。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 派遣先の大学で、医学、看護学、もしくは臨床心理学の研修(実習、講義、見学など)に自主的に参加することができる。 2) 派遣先の大学で行われている、医学、看護学、もしくは臨床心理学の現状を理解し、日本の医学もしくは看護学と比較・分析できる。 3) 派遣先の大学の学生や教員と交流ができ友好を深める行動ができる。なお、海外派遣が困難である場合には遠隔講義等を活用して同等の目的の達成を図る。			
いずれもDPの「言語運用能力」と「問題解決・課題探求能力」に対応する。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 1) 派遣先の大学もしくは受け入れ科で発行する修了証。 2) 報告書および報告会での発表の評価。 以上より判断し「了」をもって合格とする。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 対象となる派遣は以下のものに限る ・夏季休暇中：チェンマイ大学での研修(医学科・看護学科) ・夏季休暇中：ブルネイ・ダルサラーム大学での研修(医学科) ・春季休暇中：中国医科大学もしくは河北医科大学での研修(医学科・看護学科ほか) 上記の派遣において以下のとおりの活動を行うこと。 1) 事前の十分な準備を行うこと。 2) 実習を自主的かつ勤勉に行うこと。 3) 報告書を提出すること。 4) 報告会において発表すること。 その他、医学部が実施する国際交流事業においても積極的に参加すること。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 事前の英語学習、実習内容に関する予習、派遣後の振り返りについて30時間の自己学習を行うこと。			
<b>教科書・参考書等</b> ※			
オフィスアワー 募集案内に記載の各コーディネータで随時受け付ける。 あらかじめアポイントメントを取り相談に行くこと。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			

医学部で開催される様々な国際交流活動に、積極的に参加してください。

ナンバリングコード MINRS-CBAM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 960007) 看護倫理学 Nursing Ethics Nursing Ethics	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 MINRS	DP・提供部局 CBAM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 山本 美輪, 辻 京子, 清水 裕子, 松本 啓子	関連授業科目	看護研究方法論、各領域の看護学演習・特別研究	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 看護に携わるものは、日常的に倫理的問題に直面している。看護倫理は、そのような問題をどのように考え、意思決定するのかということについて学びを深める。まず、倫理、生命倫理、看護倫理の基本的な理論・原則について学び、臨床の倫理的判断、ケアの倫理、意思決定モデルについて学ぶ。そして、臨床における看護の倫理的問題について検討し、理解を深める。また看護研究を行う上で研究対象の人権擁護を行いながら、研究のプロセスを踏むための基本的な考え方を学び、これからの研究に必要な倫理的問題を検討する。			
<b>授業の目的</b> 医療における倫理の概念を概観し、倫理原則、倫理的問題解決法等について探求する。特に、看護実践や研究における倫理的問題の解決を通して倫理的判断能力を養うとともに、看護の役割・責務について探求する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 医療における倫理の概念や倫理原則について説明できる。(DPの「専門的知識・理解」に対応) 2. 看護倫理の意志決定モデルについて説明できる。(DPの「専門的知識・理解」に対応) 3. 看護における倫理的問題について、倫理的判断を行うことができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 医療の倫理における看護の役割・責務について説明できる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 研究上の倫理的課題について説明できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 評価は、プレゼンテーションの内容25%、討論への参加25%、課題レポート30%、出席状況20%により行う。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション、倫理の基本的な考え方 松本 第2回 倫理の原則と重要概念 松本 第3回 倫理的問題の検討法、ケアの倫理 山本 第4回 看護倫理、職業倫理、倫理綱領 山本 第5回 看護倫理のための意思決定モデル 辻 第6回 看護倫理のための意思決定モデル 辻 第7回 小児の倫理的問題 辻 第8回 小児の倫理的問題の検討 辻 第9回 看護研究の倫理審査について 清水 第10回 看護と科学・研究についての諸問題 山本 第11回 高齢者の倫理的問題 山本 第12回 高齢者の倫理的問題の検討 山本 第13回 研究参加者の保護に関する歴史の変遷 松本 第14回 看護研究論文における倫理的配慮のクリティーク 松本 第15回 研究公表に関する倫理的配慮 まとめ・全体討議 松本			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 授業は、担当教員ごとに講義やディスカッション等の展開が様々となります。講義内容に関する課題を受け、各自が興味のあるトピックスを選択し、プレゼンテーションを行う場合、その後、各発表に対するディスカッションを行います。教員はディスカッションのファシリテーターとアドバイザーとなります。			
<b>【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】</b> 項目によって、準備学習及び事後学習方法や内容等の具体的指定がある場合は、指示された方法に従うこととします。 特に指定がない場合は、以下の内容とします。 第2回 倫理原則に関する参考書や資料を準備、考察する。 第3回～第4回 看護倫理、職業倫理、ケアの倫理等に関する資料や参考書から要点をまとめる。 第5回～第6回 看護倫理の意思決定モデルの関する要点をまとめる。			



第7回～第8回 小児の倫理問題について課題の整理をする。  
第9回 看護研究における倫理審査の手法の整理を行う。  
第10回 看護と科学における倫理について考察する。  
第11回～第12回 高齢者の倫理問題について課題の整理をする。  
第13回～第15回 看護研究及びその公表における倫理に関する課題の整理をする。

なお、授業は対面を予定していますが、その時の状況により、遠隔授業へと変更になる可能性があります。事前に、大学からのお知らせ等の確認するようにしてください。

#### 教科書・参考書等

[参考書] Joyce E, Thompson, Hery O 他、ケイコ・キシ・イマイ他訳：看護倫理のための意志決定10のステップ、看護協会出版会、2004、3,150円、書籍部  
サラ・フライ著、片田範子他訳(2010)、看護実践の倫理 第3版、医学書院、2,376円、書籍部  
アンJ.デーヴィス監修、看護倫理 理論・実践・研究、日本看護協会出版会、2004、3,150円  
ジョンセン他著、赤林他監訳(2006)、臨床倫理学、新興医学出版、3,000円  
その他の図書については適宜紹介する。

オフィスアワー 月曜日17時から18時30分

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

倫理に関する感性を高めるために、日常に疑問を持ち、授業に望んで欲しい。また、研究については、研究のプロセスなど、研究計画について少し考えている方が望ましい。

ナンバリングコード M2NRS-ABDM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 960011A) 理論看護学 Theoretical Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABDM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 前川 泰子, 西村 亜希子, 金正 貴美	関連授業科目	看護研究方法論, 各領域の看護学演習・特別研究	
	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 看護領域における理論の考え方について教授します。また、受講生にとって修士論文作成にあたり興味・関心のある中範囲理論について教授します。			
授業の目的 修士生が、「理論」の本質を知ること、その後の修士論文を遂行していくうえで重要である。理論について学ぶことで、看護の知識の構築方法、理論と研究デザインの関連について考えを深める (DPの「専門知識・理解」に対応) ことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 理論、概念、変数について説明できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 看護の知の構成要素が説明できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 3. 看護領域に関連のある中範囲理論が説明できる。(DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 4. 学習成果を効果的にプレゼンテーションできる。(DPの「研究能力・応用力」「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法と基準 1. テーマの応じたプレゼンテーション資料の作成と発表 (50%) 2. テーマに対する議論の参加度 (20%) 3. 最終課題レポート (30%) この科目は基本的に対面授業を行います。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 授業ガイダンス 看護理論とは (前川・西村・金正) 第2回 看護における理論の活用 (前川・金正) 第3回 看護実践と理論の実際1 (前川・金正) 第4回 看護実践と理論の実際2 (前川・金正) 第5回 高度看護実践と看護理論 (前川・金正) 第6回 科学とは 看護理論の分析 (金正・前川) 第7回 概念分析の考え方と方法 (金正・前川) 第8回 概念と実践への活用、サブストラクション (金正・前川) 第9回 看護の知の構築 (金正・前川) 第10回 移行理論1 (金正・前川) 第11回 移行理論2 (金正・前川)  第12回 中範囲理論1 (西村) 第13回 中範囲理論2 (西村) 第14回 中範囲理論3 (西村) 第15回 中範囲理論4 (西村) (中範囲理論は院生が興味・関心のある理論を選択する。)			
この科目は基本的に対面授業を行います。感染症拡大など、社会助教に応じて遠隔授業を行います。			
【授業および学修の方法】 各テーマに関して、課題学習およびディスカッションポイントを準備し、プレゼン・ディスカッションを通して学びを深める。			
【自学自習のためのアドバイス】 提示されたテーマについて、自身の経験などを振り返り、関連する参考図書、文献を探り、理論をもとに看護の理解・解釈につなげて考えてください。			

教科書・参考書等

教科書

正木治恵・酒井郁子編著：Nursing Profession series 看護理論の活用 看護実践の問題解決のために, 医歯薬出版株式会社, 2015

佐藤栄子著：中範囲理論入門—事例を通してやさしく学ぶ第2版, 日総研出版, 2009

参考図書：ペギー・L・チン、メオーナ・K・クレイマー著、川原由佳里監訳：看護学の統合的な知の構築に向けて、エルゼビア・ジャパン、2007

オフィスアワー 前川：講義予定日の17:30～22:00 看護学科5階517研究室

西村：講義予定日の17:30～22:00 看護学科5階515研究室

金正：講義予定日の17:30～22:00 看護学科3階317研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業参加については、学生の主体的な参加を求めます。

ナンバリングコード MINRS-BACM-40-Mg2 授業科目名 (時間割コード： 960012) 看護研究方法論 1 Methodology of Nursing Research I Methodology of Nursing Research I (Foundation of Nursing Research, Qualitative study)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 MINRS	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Mg	単位数 2	
担当教員名 谷本 公重, 山本 美輪, 石上 悦子	関連授業科目	看護研究方法論 2	
	履修推奨科目	看護倫理学 理論看護学	
学習時間 授業・演習90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 修士論文を作成するにあたり、論文を読む能力と論文を書くために必要な基本的な知識について学ぶ。まずは看護研究の概要について教授し、次に質的なアプローチを教授する。看護実践の中から生まれる研究疑問を、研究論文としてまとめるための知識体系を発展させる基礎能力の涵養を目指す。			
授業の目的 1) 看護実践の中から生まれる研究疑問を明確化し、研究テーマを絞り込み、研究方法を選択し、研究計画書を作成して実践するといった基本的な研究プロセスを理解する。 2) 研究に欠かせない文献検索や論文のクリティークについて理解し、研究の演習に活用する。 3) 研究テーマと質的研究の関係について理解を深める。 4) 質的研究方法と研究手法について理解し、自己の研究テーマに沿った研究手法の選択に活用する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 看護研究のめざすものおよび研究のプロセスについて説明することができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 2) 研究に必要な文献を検索することができる(DPの「研究能力・応用力」に対応)。 3) 質的なアプローチの研究の具体について説明することができる(DPの「専門知識・理解」に対応)。 4) 研究テーマに沿った研究方法と進め方について説明することができる(DPの「研究能力・応用力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 1. 講義のテーマに応じたプレゼンテーション資料の作成と発表 (60%) 2. 講義のテーマに応じた議論の参加度 (40%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回	看護研究方法論1のガイダンス	谷本	
第2回	看護研究とは	谷本	
第3回	研究デザインとプロセスの概要 ・看護実践の中から生まれる研究疑問を科学的な看護研究とするために必要な プロセスを学ぶ		考え方やプ
第4回	看護研究と文献検索・文献検索演習1 ・研究にとって欠かせない文献検索方法を演習を通して理解する ・データベース紹介、医学中央雑誌検索方法、CiNii検索方法	谷本	
第5回	論文のクリティーク	谷本	
第6回	看護研究と文献検索・文献検索演習2 ・学外文献申し込み方法、Mendeley利用方法、文献検索演習	谷本	
第7回	研究の概念枠組みとサブストラクション	谷本	
第8回	看護領域における質的研究	石上	
第9回	質的研究方法論の概略	石上	
第10回	質的研究におけるデータ取得方法	石上	
第11回	主な質的研究方法と研究手法	グラウンデッド・セオリー	石上
第12回	主な質的研究方法と研究手法	現象学	山本
第13回	主な質的研究方法と研究手法	エスノグラフィー	山本
第14回	質的研究の質の確保	山本	
第15回	看護研究へ向けてディスカッション	山本	

### 【授業及び学修の方法】

授業は、講義、演習、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れながら行うが、受講者は個々の研究テーマに基づき、具体的に学びを深めることが望ましい。第15回では、自己の研究テーマに関する適切な研究方法を整理し、発表し、討議を行う。

この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。

### 【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

各回、以下に提示した内容を事前にまとめ、講義中、ディスカッションする。

第2回 授業資料を読み復習する (2時間)

第3回 研究になる看護実践の中の疑問を検討し、論理的に説明する資料を作成 (5時間)

第4回 文献検索演習問題を解く (1時間)

第5回 提示された文献をクリティークする (10時間)

第6回 演習問題を解く (1時間)

第7回 提示された論文の概念枠組みとサブストラクションを考え資料を作成 (5時間)

第8回 質的研究の歴史と特徴から看護領域への活用を考える (5時間)

第9回 質的研究に特有な名称と方法の概略を知る (5時間)

第10回 インタビューと参与観察の方法を具体的に考える (3時間)

第11回 グラウンデッド・セオリーについて文献をもとに考える (5時間)

第12回 現象学について文献をもとに考える (5時間)

第13回 エスノグラフィーについて文献をもとに考える (5時間)

第14回 質的研究の質の確保について、文献を読み、具体的に考える (5時間)

第15回 質的研究の特徴を踏まえて、研究方法の選択について考える (3時間)

### 教科書・参考書等

#### 教科書

1. グレグ美鈴他編：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 第2版，医歯薬出版，2016.

#### 参考書

1. D. H. ポリット, B. P. ハングラー、監訳 近藤潤子：看護研究 原理と方法，医学書院，2007.
2. P. J. Brink, Wood, 小玉香津子・輪湖史子訳：看護研究計画書作成のステップ，日本看護協会，1999
3. 北素子、谷津裕子：質的研究の実践と評価のためのサブストラクション，医学書院，2009
4. ホロウエイ, S. ウイラー，野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門 第2版，医学書院，2008.
5. 戈木クレイグヒル滋子：質的研究方法ゼミナール グランデッドセオリー・アプローチを学ぶ増補版，医学書院，2008
6. 山本則子，萱間真美 他：グランデッドセオリー法を用いた看護研究のプロセス，文光堂，2005
7. 木下康仁：ライブ講義M-GTA実践的質的研究法 修正版グランデッドセオリー・アプローチのすべて，弘文堂，2007.
8. 木下康仁：M-GTA グランデッドセオリーアプローチの実践 質的研究への誘い，弘文堂，2003.
9. 木下康仁：M-GTA 分野別実践編 グランデッドセオリーアプローチ，弘文堂，2005.
10. 谷津裕子：Start Up 質的看護研究，学研，2014.

オフィスアワー 講義終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自ら積極的に学び、自らの研究において実践するといった姿勢で臨むこと。

ナンバリングコード MINRS-BACM-40-Mg2 授業科目名 (時間割コード： 960013) 看護研究方法論 2 Methodology of Nursing Research II Methodology of Nursing Research II	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 MINRS	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Mg	単位数 2	
担当教員名 市原 多香子, 芳我 ちより, 宮武 伸 行	関連授業科目	看護研究方法論 I	
	履修推奨科目	看護倫理学、理論看護学	
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
<b>授業の概要</b> 看護領域では研究対象により研究方法が多岐にわたります。看護研究方法論1において修士論文作成に必要な看護研究の概要について習得した後、看護研究方法論2が始まります。 看護研究方法論2では、量的なアプローチによる研究の方法を概説します。とくに量的研究デザインを紹介し、量的研究論文を理解するため、論文クリティークを実施します。また記述統計や検定などの統計学の基礎について講義します。さらに見本エクセルデータを使用し、記述統計や推測統計の演習を行います。			
<b>授業の目的</b> この科目では看護研究の中の、多様な研究方法の中から、自然科学を基盤とした量的研究の基本を学びます。リサーチクエッションのレベルに応じた研究デザインを理解し、さらに量的研究の論文クリティークを通して、量的研究の論文を読み込む基礎的力を身につけます。また、統計学の知識として、記述統計・推定・検定などの知識を修得し、演習を通して、量的データを分析する力を修得します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 研究疑問のレベルに適した研究デザイン(実態調査研究、相関研究、実験研究)を説明できる。(DPの「専門知識・理解力」に対応) 2. 量的研究デザインごとに文献を収集し、クリティークできる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 量的データ分析の記述統計と推測統計について説明できる。(DPの「専門知識・理解力」に対応) 4. 見本データから記述統計と推測統計を実施し、結果としてまとめることができる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 1. 参加度 (20%) 2. プレゼンテーション (30%) 3. 最終課題レポート (50%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 自学自習による準備・学習を求めます。			
第1回 ガイダンス 第2回 量的研究方法とは 市原 第3回 量的研究方法とは 市原 第4回 統計学的アプローチとは 宮武 第5回 記述統計 宮武 第6回 推定 宮武 第7回 検定 宮武 第8回 相関と回帰 宮武 第9回 多変量解析 宮武 第10回 量的研究文献クリティークをもとに発表 市原 第11回 量的研究文献クリティークをもとに発表 市原 取り寄せる文献のテーマは自由ですが、期日までに論文とクリティーク用紙を提出する。この様式は後日メール添付する。 発表はクリティーク結果をもとに論文を紹介する。 第12回 統計演習：記述統計によりデータ分析 芳我 演習用エクセルデータを用いて、記述統計によりデータの分布を説明した上で、検定と推定を実施する(ワークシートあり)。 期日までにワークシートを提出する。 第13回 統計演習：検定と推定の実施 芳我 第14回 統計演習の説明とまとめ 第15回 統計演習の説明とまとめ			

**【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】**

自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

第2～3回 参考図書で紹介した看護研究の文献等で、量的研究を学習しておいてください。

第4～9回 参考図書で紹介した看護研究の文献等で、統計学を学習しておいてください。

第10～11回 実態調査研究、相関研究、準実験研究の中から原著論文を2つ取り寄せ、論文クリティークを行い、発表できるように準備しておいてください。

第12～15回 演習用エクセルデータを用いて、記述統計によりデータの分布を説明した上で、検定と推定を実施してください（ワークシートあり）。

教科書・参考書等

教科書

なし

参考書

近藤潤子監訳 看護研究 原理と方法 医学書院

坂下玲子他著者 系統看護学講座看護研究 医学書院

南裕子編集 看護における研究 日本看護協会出版会

小笠原知枝・松木光子編集 これからの看護研究基礎と応用 NOUVELLE HIROKAWA

石村 貞夫著 SPSSによる統計処理の手順 東京図書

対馬栄輝著 SPSSで学ぶ医療系データ解析 東京図書

高木廣文著 エビデンスのための看護研究の読み方・進め方 中山書店

演習の進行度に合わせて適宜紹介します。

オフィスアワー 講義終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自ら積極的に学び、自らの研究において実践する姿勢で臨んでください。

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 960014) 養護教育特論 School Health Care Theories	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 山本 美輪, 辻 京子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 まずは、園児・児童の遠見視力の低下は生活習慣病のひとつであること、また、遠見視力の低下防止の保健教育モデルについて講義・演習・ディスカッションを交え教授する。次に、児童生徒の健康課題と養護教諭が行う研究について享受する。さらに、疾病を持つ子どもと家族、そして支援について教授する。			
授業の目的 学校生活を送る子どもへの養護実践と養護学研究のために必要とされる養護教諭としての必要な保健、教育に関する諸理論を理解するとともに、配慮を必要とする子どもへの支援を医療との連携について理解を深める。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遠見視力の解剖・生理について理解することができる。</li> <li>2. 遠見視力低下と生活習慣の関連について説明することができる。</li> <li>3. 遠見視力低下防止の活動方法について関心を持つことができる。</li> <li>4. 児童生徒の健康課題と養護教諭が行う研究について理解することができる。</li> <li>5. 慢性疾患に関して、その症状や医療的ケア、入院中の子どもたちの様子に関して基本的な説明をすることができる。</li> <li>6. 入院中の子どもたちの学習支援の様子について説明することができる。</li> <li>7. 復学支援・学校生活支援に関する課題について説明することができる。</li> <li>8. 配慮を必要とする子どもへの支援に関する医療との連携について説明することができる。</li> </ol>			
成績評価の方法と基準 講義の参加度・貢献度、教員から出されたレポート課題の達成度などを総合的に評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業は、集中講義でおこなわれる。第1回～5回および第11回～15回は他の教員とのディスカッションする機会がある。また、第6～9回は個別的な講義となる。いずれも目的を明確にして、主体的に参加すること。			
第1回 園児や児童の遠見視力低下と生活習慣 第2回 遠見視力低下防止の保健教育モデル 第3回 遠見視力低下防止の試み<演習> 第4回 研究グループとのディスカッション 第5回 まとめ 第6・7回 日本と海外の児童生徒の健康課題について文献講読 第8・9回 養護教諭として行うべき研究の進め方やまとめ方について (研究デザイン) 第11回 小児がんを診断された子どもの症状、治療、子どもと家族の様子、学習支援 第12回 1型糖尿病を診断された子どもの症状、治療、糖尿病スプリングキャンプ 第13回 アレルギーを持つ子どもとその生活管理 第14回 病院内病弱・身体虚弱特別支援学級 第15回 まとめ			
*この科目は、基本対面講義ですが、一部遠隔講義となります。			
教科書・参考書等 課題および研究進行度を考慮し、適宜、提示・紹介します。			
オフィスアワー 非常勤講師に対しては、講義の際に相談する事。それ以外で必要があれば、前川・佐々木に相談すること。 前川：適宜。メールでの相談も受け付けます。 看護学科教育研究棟 5階 517号室 佐々木：適宜。メールでの相談も受け付けます。 看護学科教育研究棟 4階 416号室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 主体的な学びを基に授業に参加してください。			



ナンバリングコード M2NRS-ABDM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 961001) 基礎看護学特論 Advanced Fundamental Nursing I	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABDM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 前川 泰子, 西村 亜希子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分(演習含む) × 15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 本授業では、それぞれの看護実践から自己を省察し、問題解決、意思決定、また教育・人材育成、情報活用など各自の課題と解決方法について探究する。また、看護の実践、教育、管理など直接・間接的に看護ケアに影響を与える事象について文献抄読を通して、科学的な課題解決方法について理解を深める。			
<b>授業の目的</b> 看護実践場面を振り返ることで見出された課題に対して、それに関する文献や先行研究、理論をもとにプレゼンテーション、ディスカッションを通じて課題解決の方法を探索する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) それぞれの看護実践を振り返り、省察することができる。 2) 課題に対する解決方法について、文献や先行研究、理論をもとに、自己の解決方法について具体的に考えることができる。 3) EBNの基本ステップが説明できる。 4) 看護に関する学生の関心ある研究課題に関して、現在までに明らかにされている科学的・理論的根拠を調べ、説明できる。  (以上、DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 課題レポートの提出およびプレゼンテーション内容、ディスカッション内容を総合して行います。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
第1回 ガイダンス 第2回 文献の活用とEBN (1) 概論 第3回 文献の活用とEBN (2) 疑問点の抽出と文献検索 第4回 文献の活用とEBN (3) 文献の批判的吟味 第5回 生活援助技術とEBN (討議、発表を含む) 第6回 診療援助技術とEBN (討議、発表を含む) 第7回 看護技術研究の検討 (討議、発表を含む) 第8回 EBNの看護実践への活用 (討議、発表を含む) 第9回 看護における情報とは (討議、発表を含む) 第10回 看護における情報活用 (討議、発表を含む) 第11回 看護実践における問題解決 (討議、発表を含む) 第12回 看護実践における意思決定 (討議、発表を含む) 第13回 看護におけるリフレクション (討議、発表を含む) 第14回 看護における人材育成 (討議、発表を含む) 第15回 看護におけるキャリア開発 (討議、発表を含む)		前川・西村 西村 西村 西村 西村 西村 西村 西村 前川 前川 前川 前川 前川 前川 前川	
<b>【授業および学修の方法】</b> 各テーマに関して、課題学習およびディスカッションポイントを準備し、プレゼン・ディスカッションを通して学びを深める。 この科目は基本的に対面授業を行います。感染症拡大など、社会助教に応じて遠隔授業を行います。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 提示されたテーマについて、自身の経験などを振り返り、関連する参考図書、文献を探り、看護の理解につなげて考えてください。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書 特になし			

参考書

パトリシア・ベナー著，井部俊子監訳：ベナー看護論 新訳版 初心者から達人へ，医学書院

オフィスアワー 前川：講義予定日の17：30～22：00 看護学科5階517研究室

西村：講義予定日の17：30～22：00 看護学科5階515研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各自、看護実践における課題を意識して受講されることを期待します。

ナンバリングコード M3NRS-BCDM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード： 961005) 基礎看護学演習 Seminar in Fundamental Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 BCDM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 前川 泰子, 西村 亜希子	関連授業科目	基礎看護学特論	
	履修推奨科目	看護研究方法論 1, 看護研究方法論 2	
学習時間 授業90分×30回 + 自学自習 (準備学習80時間 + 事後学習40時間)			
授業の概要 基礎看護学領域でそれぞれの関心のあるテーマについて、国内外の先行研究レビューを行い、研究課題を明確化することを支援します。そして、研究課題に適した研究方法を検討し、研究計画書の作成、中間発表会、倫理委員会受審の各プロセスにおいて支援します。			
授業の目的 基礎看護学領域でそれぞれの関心のあるテーマについて、国内外の先行研究レビューを行い、研究課題を明確化する。また研究課題に適した研究方法を検討し、研究計画書の作成、中間発表会、倫理委員会受審に向けて準備することを目的とする。 (以上、DPの「研究能力・応用力」「専門知識・理解」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 研究疑問に対して、国内外の先行研究レビューを行い、研究課題を明確化できる。(DPの「研究能力・応用力」「専門知識・理解」に対応) 2. 各自の研究課題を解決するための研究方法を選択できる。(DPの「研究能力・応用力」「専門知識・理解」に対応) 3. 研究デザインの設計ならびに、研究計画書の作成ができる。(DPの「研究能力・応用力」「専門知識・理解」に対応) 4. 研究における倫理的配慮について理解し、倫理委員会受審に向けて準備ができる。 (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法と基準 課題レポートの提出およびプレゼンテーション内容、ディスカッション内容を総合して行う。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ディスカッションやプレゼンテーションを取り入れて展開する。			
第1回 ガイダンス 第2回 基礎看護学に関する文献検索 第3回 基礎看護学に関する研究の動向 第4回 基礎看護学に関する研究論文1クリティーク 第5回 基礎看護学に関する研究論文2クリティーク 第6回 基礎看護学に関する研究論文3クリティーク 第7回 研究テーマ検討 第8回 研究テーマに関連する文献検討 第9回 研究目的の検討 第10回 研究デザイン 第11回 研究目的の明確化 第12回 研究方法の検討 第13回 研究の倫理的配慮の検討 第14回 研究計画書の作成 第15回 中間発表 第16回 研究計画書の作成 (研究テーマの修正) 第17回 研究計画書の作成 (研究目的の修正) 第18回 研究計画書の作成 (研究デザインの修正) 第19回 研究計画書の作成 (研究対象の修正) 第20回 研究計画書の作成 (研究方法の修正) 第21回 研究計画書の作成 (研究方法の修正) 第22回 倫理的配慮の修正 第23回 倫理審査申請書の作成 第24回 倫理審査申請書の作成 (必要資料の作成) 第25回 倫理審査申請書の作成 (必要資料の作成) 第26回 倫理審査申請書の修正 第27回 倫理審査申請書, 必要資料の修正 第28回 研究計画書, 倫理審査申請書・必要資料のまとめ			

第29回 研究計画発表  
第30回 まとめ

**【授業および学修の方法】**

各テーマに関して、事前に準備し、プレゼン・ディスカッションを通して学びを深める。  
この科目は基本的に対面授業を行います。感染症拡大など、社会助教に応じて遠隔授業を行います。

**【自学自習のためのアドバイス】**

自分の研究テーマに関連した文献を参考にしながら、看護研究に必要なステップについて、ひとつひとつ丁寧に理解、学修していくようにしてください。

**教科書・参考書等**

研究方法論等で紹介された図書の活用を勧める。他、適宜提示する。

オフィスアワー 前川 : 講義予定日の17:30~22:00 看護学科5階517研究室  
西村 : 講義予定日の17:30~22:00 看護学科5階515研究室

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

各自研究計画は、研究目的を絶えず意識して進めることを心がけて下さい。

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 961103) 看護医科学特論 Advanced Medical Science of Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 塩田 敦子, 藤井 豊, 筒井 邦彦	関連授業科目	臨床科学	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 看護に関する医学的問題点を探求するために、人体の構造や生理的機能、疾病の病態生理、治療、生化学や分子生物学の知識、さらには看護と漢方の関わりについても学生とともに知識を深めていきます。			
授業の目的 漢方医学における疾患の病理と病態生理、薬理学的理解、さらに生化学・分子生化学的方法論の理解を通して (a)、看護における医療技術の問題点を認識し (b)、また、医療システムの問題点についても認識を深め (c)、基礎的な知識を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 疾患に対する看護の医療技術の問題点を分析できる 2) 現在の看護における医療システムの問題点について分析できる 3) 文献検索により上記の問題点を探求することができる 4) 上記の問題点を解決するために必要な研究方法を具体的に述べられる			
成績評価の方法と基準 主体的参加状況・発表内容・レポートにより総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
第1回	漢方と母性看護、小児看護		塩田
第2回	漢方と在宅看護、老年看護		塩田
第3回	漢方と緩和ケア看護、災害看護		塩田
第4回	漢方と精神看護		塩田
第5回	漢方と医療者のセルフケア		塩田
第6回	(未定)		新准教授
第7回	(未定)		新准教授
第8回	(未定)		新准教授
第9回	(未定)		新准教授
第10回	(未定)		新准教授
第11回	パンデミックインフルエンザウイルス (抗原変異)		藤井
第12回	パンデミックインフルエンザウイルス (宿主特異性)		藤井
第13回	実験研究の一例 ウイルスゲノムのパッケージ機構		藤井
第14回	実験研究の一例 インコーポレーション・シグナルの解明		藤井
第15回	まとめ		藤井
講義と学生の自主学习によるプレゼンテーションを基にして、ディスカッションによる演習を行います。			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
教科書・参考書等 参考書 漢方診療のレッスン (増補版)、花輪壽彦、金原出版、2003、5170円 (購入は必須ではありませんが、参考にするとわかりやすいと思います) 医科ウイルス学、高田賢蔵著、南江堂、2009、9180円 (詳しく勉強したい人のための参考書)			
オフィスアワー 月曜日午後6-8時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義日程については随時相談に応じます。			

ナンバリングコード M3NRS-BACM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 961104) 看護医科学演習 Seminar in Medical Science of Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～2医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 塩田 敦子, 藤井 豊, 筒井 邦彦	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	看護医科学特論、臨床科学	
学習時間 授業90分×30回+自学自習(準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 看護に関連する医学的論文をインターネットで検索する能力、さらには論文を読解して論文の要旨を述べる能力、研究計画の立て方、研究の進め方や解析方法及び研究結果に対する考察の仕方を習得し、研究計画書や修士論文作成に必要な基礎的知識を習得する。			
授業の目的 実際に研究計画書を作成するため、自ら看護に関する医学的な問題点を認識する (b)。関係する論文や先行研究を収集する能力を身につける (a、c)。各自の研究テーマの策定と、その研究方法の基本を理解する (b)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 関心のある論文を検索・検討し、自らの研究課題との関連性を明確化できる。 2. 研究の立案、研究の進め方、研究方法を選択できる。 3. 研究結果の予測と考察の仕方について説明できる。 4. 最終的に研究計画書を作成できる。			
成績評価の方法と基準 各自の学習の内容と密度、研究計画書作成の過程の各ステップに関するプレゼンテーション、討論への参加及び研究計画書の完成度を総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
1回	文献検索の仕方	塩田、藤井、新准教授	
2回	文献検索(邦文)	〃	
3回	文献検索(英文)	〃	
4回	文献検索 文献の抽出	〃	
5回	文献検索 文献の絞り込み	〃	
6回	各自が興味を持つ研究分野についてプレゼンテーション	〃	
7回	各自が興味を持つ研究分野についてプレゼンテーション	〃	
8回	各自の研究予定のテーマについてプレゼンテーション	〃	
9回	各自の研究予定のテーマについてプレゼンテーション	〃	
10回	関連する文献の輪読	〃	
11回	関連する文献の輪読	〃	
12回	関連する文献の輪読	〃	
13回	関連する文献の輪読	〃	
14回	関連する文献の輪読と研究テーマの絞り込み	〃	
15回	関連する文献の輪読と研究テーマ案	〃	
16回	関連する文献の輪読と研究テーマ案の修正	〃	
17回	研究テーマと研究計画の概略	〃	
20回	研究テーマの修正と研究計画の概略	〃	
21回	研究計画書の作成	〃	
22回	研究計画書の修正	〃	
23回	研究計画書の再修正	〃	
24回	研究計画書のプレゼンテーション	〃	
25回	研究計画書の再々修正とプレゼンテーション	〃	
26回	倫理審査書類の作成	〃	
27回	倫理審査書類の作成	〃	
28回	倫理審査書類の修正	〃	
29回	倫理審査のWEB上での申請	〃	
30回	研究計画書の提出	〃	
【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】 自学自習(準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			

教科書・参考書等

参考書（購入は必須ではありません）

1. 実証研究の手引き、古谷野亘、長田久雄著、ワールドプランニング、2014、1270円
2. SPSSによる統計処理の手順、石村貞夫、石村光資郎著、東京図書、2018、3024円

オフィスアワー 月曜日、木曜日午後6時以後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義日程については随時相談に応じます。

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 962011) 急性期成人看護学特論 Advanced Adult Health Acute Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 市原 多香子	関連授業科目	急性期成人看護学演習	
	履修推奨科目	理論看護学 看護研究方法論	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 成人看護領域における健康障害を持つ患者や家族に対する看護を理解するための科目です。成人期にある人のケアに関する理論や、健康危機の予防と手術や血管病変の治療からの回復を促進させる有効な看護実践について、文献学習とグループ討議により、自分なりの解決策をこれまでの体験と関連付けて探求します。授業は、ディスカッションや学生の主体的参加によってすすめていきます。			
<b>授業の目的</b> 健康危機状況はすべての健康レベルで起こります。本講義では、高度専門職業人として必要な知識と能力の一つとして、成人看護領域における健康障害をもつ患者および家族に関する既存の理論と看護実践の現状と課題を理解するとともに、その知識を基盤にし、健康危機状況の予防と回復を促進するための方法を探求する基礎となる能力を身につけることを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 学生の興味のあるテーマに関する文献を検索し、提示することができる。(DPの「専門的知識・理解」に対応) 2. 学生の興味のあるテーマに関する文献を精読し、看護の現状と課題について整理できる。(DPの「専門的知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応する) 3. 学習成果として効果的にプレゼンテーションできる。(DPの「専門的知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 4. テーマに関する討議に主体的に参加できる。(DPの「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 1. テーマに応じたプレゼンテーション資料 (50%) と発表 (20%) 2. テーマに対する議論の参加度 (30%) から総合的に評価する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 授業は、各自が興味のあるテーマを下記より選択しプレゼンテーションを行ってまいります。そのプレゼンテーションをもとに討議をすすめます。そのため、自学自習による準備・学習を求めます。			
第 1回 ガイダンス 第 2回 健康危機状況にある成人患者の理解に関する理論：ストレス・コーピング 第 3回 健康危機状況にある成人患者の理解に関する理論：危機理論 第 4回 リハビリテーションの必要な患者の理解とアセスメントに関する理論：障害受容 第 5回 リハビリテーションの必要な患者の理解とアセスメントに関する理論：ICFモデル 第 6回 健康危機状況にある成人患者の看護援助に関する理論：成人教育 第 7回 健康危機状況にある成人患者の看護援助に関する理論：症状マネジメント 第 8回 健康危機状況にある成人患者の看護援助に関する理論：健康信念モデル 第 9回 健康危機状況にある成人患者の看護援助に関する理論：変化ステージモデル 第10回 健康障害をもつ患者に必要な看護援助の現状と課題の検討：周術期患者の回復促進 第11回 健康障害をもつ患者に必要な看護援助の現状と課題の検討：循環機能障害患者の回復促進 第12回 健康障害をもつ患者に必要な看護援助の現状と課題の検討：生活習慣病の重症化予防 第13回 健康障害をもつ患者に必要な看護援助の現状と課題の検討：廃用症候群予防 第14回 健康障害をもつ患者に必要な看護援助の現状と課題の検討：運動機能障害患者の回復促進 第15回 総括			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 興味のあるテーマに関してレポートを作成し、発表する			
教科書・参考書等 教科書 なし 参考書 小島操子：看護における危機理論・危機介入、Kinpod、2013年 上田敏：ICFの理解と活用、きょうされん、2016年			



野川道子：看護実践に活かす中範囲理論、2016年  
佐藤栄子：事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門、2014年  
大川弥生：よくする介護を实践するためのICFの理解と活用、中央法規、2015年  
南雲直二：社会受容、荘道社、2002年  
松本千明：健康行動理論の基礎、医歯薬出版株式会社、2012年  
曾根智史訳：健康行動と健康教育、医学書院、2009年

オフィスアワー 講義終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ  
積極的に討論に参加し、自分の関心領域・専門領域を関連させて探求してください。

ナンバリングコード M3NRS-BACM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 962012) 急性期成人看護学演習 Adult Health Acute Nursing Seminar	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 市原 多香子	関連授業科目	急性期成人看護学特論、看護研究方法論	
	履修推奨科目	看護研究方法論	
学習時間 授業90分×30回+自学自習(準備学習60時間 + 事後学習60時間)			
<b>授業の概要</b> 健康危機状況とその予防や様々な機能障害から回復促進するための看護実践の中から、問題となる看護現象を研究疑問として捉え、自らの研究課題を焦点化していくプロセスを支援します。文献学習により研究課題とその意義を明確にして、研究課題の解決に向けた適切な研究方法をディスカッションによって追求します。このプロセスを経て研究計画書の作成を支援します。			
<b>授業の目的</b> 成人看護領域における健康障害をもった対象とその家族の問題となる看護現象に関して、文献検討およびクリティークを通して自らの研究課題を焦点化し、研究課題を解決する適切な研究方法を理解したうえで、研究計画書を作成する力を修得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 研究疑問に対して文献レビューを行い、研究課題を明確にできる。(DPの「研究能力・応用力」「専門的知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応する) 2. 研究課題を解決するための多様な研究方法について学習し、発表できる。(DPの「研究能力・応用力」「専門的知識・理解」に対応する) 3. 研究で主要概念となる用語を定義し説明できる。(DPの「研究能力・応用力」「専門的知識・理解」に対応する) 4. 研究課題の解決に適した研究方法を根拠をもって選択できる。(DPの「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応する) 5. 研究計画書を作成することができる。(DPの「研究能力・応用力」「専門的知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応する)			
<b>成績評価の方法と基準</b> プレゼンテーション資料(50%)、研究計画書の内容(50%)を総合的に判断します。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
研究計画書を作成するステップの基本となる知識について、各自が資料を準備したうえでプレゼンテーションし、参加者相互のディスカッションを通して理解を深めます。			
第1回 研究計画書を作成するための導入 第2回 研究論文クリティークその1：因子探索研究 第3回 研究論文クリティークその2：実態調査研究 第4回 研究論文クリティークその3：関係探索研究 第5回 研究論文クリティークその4：介入研究 第6回 リサーチクエスト 第7回 リサーチクエストに対する文献検索 第8回 リサーチクエストに関する文献検討：研究対象者 第9回 リサーチクエストに関する文献検討：研究デザイン 第10回 リサーチクエストに関する文献検討：測定方法 第11回 研究課題の明確化 第12回 研究の概念枠組み 第13回 研究方法の検討：研究デザイン 第14回 研究方法の検討：主要概念の定義 第15回 研究方法の検討：研究背景・意義・目的 第16回 研究方法の検討：研究対象者 第17回 研究方法の検討：測定方法 第18回 研究方法の検討：分析 第19回 研究方法の検討：研究の倫理的配慮 第20回 研究計画書の作成：背景 第21回 研究計画書の修正：背景 第22回 研究計画書の作成：意義・目的 第23回 研究計画書の修正：意義・目的 第24回 研究計画書の作成：倫理的問題			

- 第25回 研究計画書の修正：倫理的問題
- 第26回 研究計画書の作成：研究方法
- 第27回 研究計画書の修正：研究方法
- 第28回 研究計画書の作成：発表
- 第29回 研究計画書の修正：発表
- 第30回 まとめ

【自学自習のためのアドバイス】

1. 関心領域の論文を収集し、整理する
2. テーマに関連した論文を検索し、収集し、整理する
3. 文献検討の結果について、資料を作成する
4. テーマに適した研究方法を整理しておく
5. 選んだ研究デザインと研究方法について調べておく
6. データ分析（質研究、統計）や研究倫理のFD研修に参加する
7. テーマに関連して、予備調査をする
8. 研究計画書の作成方法について調べておく
9. 研究計画書を作成する
10. 中間発表に向けて発表資料を作成する

教科書・参考書等

教科書なし

参考書

D.F. ポーリット&C.T. ベック著、近藤潤子監訳、看護研究-原理と方法、第2版、医学書院、2011年(9500円+税)  
Pamela J. Brink、小玉香津子訳、看護研究計画書-作成の基本ステップ、日本看護協会、2000年  
南裕子：看護における研究、日本看護協会出版会、2008年  
木原正博：医学的研究のデザイン、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2016年  
小笠原知枝：これからの看護研究 基礎と応用、NOUVELLE HOROKAWA、H19年  
古谷野亘：実証研究の手引き、ワールドプランニング、2001年  
前田樹海：APAに学ぶ看護系論文執筆ルール、医学書院、2013年

オフィスアワー 講義終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

事前に研究テーマに関する多くの書物や文献をよく読んで、知識を整理してから授業に臨んでください。

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 962021) 慢性期成人看護学特論 Chronic nursing theory for adults	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 清水 裕子	関連授業科目	看護教育学	
	履修推奨科目	看護教育学	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
<b>授業の概要</b> 本授業では、研究入門者である修士学生が成人看護研究にとりかかる前に、関連する基本概念を理解するための科目である。 人間の完態である成人は、生涯発達の看護学を理解する上での基本モデルであり、成人看護研究を学ぶことで他の発達段階での研究の理解をも深めることができる。 具多雨的には、成人の人間らしさを科学的に理解するために、認知と行動の発達を行動科学理論でとらえ、また慢性疾患の不確かさや病の経過を軌跡としてとらえる。さらに死に向かう人間の生きる意味や逆境を生き抜く強さなどを哲学的な観点からとらえ、慢性期看護のあり方を考える。これらを通して、看護者の態度価値、看護者に必要な哲学的人間観の涵養を目指している。			
<b>授業の目的</b> 哲学的、科学的観点から成人看護研究方法を学び、各自の研究計画への示唆を与えることである。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<b>到達目標</b> 1. 慢性期にある成人の役割課題が説明できる。 2. 慢性期にある成人への有用な看護方法が説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業や討論への参加度、資料など成果物、発表などを評価資料とする。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>授業計画</b> 授業は参加型とする。 自らの疑問や関心に関連する事項を発表し、討論を展開することが基本である。			
第1回	ガイダンス・成人看護研究トピックス	清水	
第2回	これまでの看護研究の経験の振り返り	清水	
第3回	慢性期の研究方法――量と質の混合研究法	清水	
第4回	成人看護のための行動科学Ⅰ―認知	清水	
第5回	成人看護のための行動科学Ⅱ―発達	清水	
第6回	成人看護のための行動科学Ⅲ―行動理論	清水	
第7回	成人看護のための行動科学Ⅲ―認知行動理論	清水	
第8回	成人疾病と看護―不確かさ理論	清水	
第9回	成人疾病と看護―不確かさ理論の応用	清水	
第10回	成人疾病と看護―病みの軌跡理論	清水	
第11回	成人疾病と看護―病みの軌跡理論の応用	清水	
第12回	成人看護における存在論―ケアリング	清水	
第13回	成人看護における存在論―スピリチュアルニード	清水	
第14回	成人看護における哲学的アプローチ―スピリチュアルケア	清水	
第15回	成人看護における態度価値とwell-being	清水	
<b>【自学自習へのアドバイス】</b> 各授業の際には、院生各自が必ず、資料となるレジュメを準備し、討論形式で進める。			

教科書・参考書等

教科書 なし

参考図書

Roach, M. S. (鈴木智之・操華子・森岡崇訳)アクト・オブ・ケアリング, ゆみる出版, 1996(2, 100円)

Waldemar Kippes, スピリチュアルケア, サンパウロ, 1999(2, 300円)

Pierre Woog(ed.), 黒江ゆり子他訳, 慢性疾患の病みの軌跡, 医学書院, 1995(2, 700円)

Pearman, R. R. & Albritton, S. C.、園田由紀訳, MBTIへの招待, 金子書房, 2002(3, 500円)

Walker, L. O. & Avant, K. C. (中木高夫・川崎修一訳)看護における理論構築の方法, 医学書院, 2008(3, 800円)

清水裕子編著、ヒューマンケアと看護学、ナカニシヤ出版、2014

オフィスアワー 学生相談は随時, Emailも対応する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

プレゼンテーション資料は、事前に相談に応じる。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg4 授業科目名 (時間割コード: 962022) 慢性期成人看護学演習 Chronic nursing theory for adults	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 4	
担当教員名 清水 裕子	関連授業科目	看護教育学、慢性期成人看護学特論	
	履修推奨科目	看護教育学、慢性期成人看護学特論	
学習時間 授業90分×30回 + 自学自習 (準備学習 120時間 + 事後学習 120時間)			
授業の概要 慢性成人看護学演習では、修士論文計画書作成と中間発表が主な内容である。学生の関心領域のテーマについて文献検索し、クリティークを繰り返して研究テーマを絞り込む。研究テーマを明らかにするための研究方法の妥当性を検討して、倫理委員会受審までの研究計画書を作成する。その段階で中間発表会に臨み、発表方法や質疑応答の方法を学び、研究方法を具体化していく段階までを行う。			
授業の目的 慢性成人慢性期から終末期にある成人とその家族の看護を発展させるために、各自が選択したテーマに基づいて、実現可能性のある研究計画を概ね作成できる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 研究疑問を研究課題として明確化できる。 2. 研究課題に関連する文献検索を行って実現可能性を明らかにできる。 3. 研究に用いる主要概念を整理・説明することができる。 4. 研究課題を解決する妥当な研究方法を説明できる。 5. 以上から、計画書として作成し、他者の質疑に応答できる。			
成績評価の方法と基準 参加度、取り組み態度、プレゼンテーション、計画書内容など総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 研究計画書を作成するために必要な基本知識と計画書作成までの学習内容を適切に発表し、発展させる。			
第1～2回	研究計画書の作成までのガイダンス	清水	
第3～4回	これまでの看護研究の経験の振り返り	清水	
第5～6回	過去の研究の成果の評価	清水	
第7～8回	研究疑問の妥当性	清水	
第9～10回	研究疑問を深める～文献の参照	清水	
第11～12回	研究の意義の明確化	清水	
第13～14回	研究の主要概念の説明と整理	清水	
第15～16回	研究の主要概念分析	清水	
第17～18回	研究デザインの検討	清水	
第19～20回	研究方法の検討	清水	
第21～22回	分析枠組み	清水	
第23～24回	研究における倫理的問題の検討	清水	
第25～26回	研究計画書の作成	清水	
第27～28回	研究計画書のクリティーク	清水	
第29～30回	中間発表会における発表と質疑応答	清水	
【自学自習へのアドバイス】 各授業は、院生各自が資料となるレジュメを準備し、討論形式で行う。			
教科書・参考書等 教科書 なし 参考図書  清水裕子編著、ヒューマンケアと看護学、ナカニシヤ出版、2014 Brink著、小玉香津子他訳 (1999)、「看護研究計画書作成のステップ」日本看護協会出版会、3,465円、書籍部にて購入 ポーリット・ハングラ著、近藤潤子他訳 (1994)、看護研究原理と方法、医学書院、11,807円			

オフィスアワー 各自の進行状況に応じて、随時相談に応じます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ  
プレゼンテーション資料は、事前に相談に応じます。

ナンバリングコード M2NRS-ACBM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 962101) 小児看護学特論 Pediatric Nursing Theories Pediatric Nursing Theories	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ACBM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 谷本 公重	関連授業科目	小児看護学演習、小児看護学特別研究	
	履修推奨科目	看護倫理学、看護研究方法論1、看護研究方法論2	
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 本研究科小児看護学では、小児看護の臨床現場における複雑で困難な問題を解決し、その看護実践を体系化、理論化することを目指しています。そのため、小児看護学特論は、小児看護において用いられる子どもとその家族に関する諸理論を学際的に探究していきます。授業は、各回のテーマに関して院生による主体的な学びをもとに、参加者によるディスカッションによって進行していきます。また、必要に応じて英語文献の講読も行います。自学自習により、講読を進めて講義に臨んでください。			
<b>授業の目的</b> 子どもを統合体としてとらえた上で、小児看護において重要な理論に関して概観していきます。この事を通して、子どもを理解するとともに、子どもの最善の利益を守るための法律や条約に関して理解を深めます。加えて、子どもを持つ家族に関する理論に関して検討していきます。そして、これらの諸理論に関して、社会情勢を踏まえ、日本の文化の中において適応する際の課題について考察していきます。これらの過程を通して、講義のためにレビューした文献を読み進めることにより、研究の動向が明らかとなり、個々の研究課題の明確化につなげることが可能となります。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 子どもの成長発達に関する原則を列挙することができる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 子どもの権利条約に関する歴史的背景とその内容、現状および課題について説明することができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 子どもの認知発達に関する理論について述べるすることができる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 4. 子どもを持つ家族に関する理論について述べるすることができる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 5. これらの理論を臨床現場における現状に適応し、その課題を説明することができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 講義での討議の内容(50%)およびレポート内容(50%)から、積極性・論理性・理解力・表現力を評価します。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 ガイダンス 第2回 生涯発達と小児：成長発達の理解—生物学的視点 第3回 成長発達の理解：解剖生理学的視点 第4回 成長発達の理解：心理学的視点 第5回 成長発達の理解：社会学的視点 第6回 子どもの最善の利益を守るための法律・条約 第7回 医療現場において子どもとその家族の最善の利益を守るためのケアモデル 第8回 子どもの認知発達に関する理論：ピアジェの思考発達段階説 第9回 子どもの関係性の発達：マラーの分離—固体化理論、ボルビイの愛着理論 第10回 子どもの関係性の発達：ボルビイの愛着理論 第11回 子どもの自我の発達：エリクソンの自我発達理論 第12回 子どもの自我の発達：フロイトの心理学的理論 第13回 子どもの生活援助に関する理論 第14回 健康危機状態にある子どもとその家族への援助に関する理論 第15回 諸理論適応による事例検討とその課題			
<b>【授業及び学修の方法】</b> 授業は、受講者の理解を深めるために発表と全体討議で展開します。毎回、提示された内容に関して、事前学習をし、理解を深め、資料を作成する。13回～15回では、授業で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理し、受講者が発表し、討議を行います。			



この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

**【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】**

第2回～12回 毎回、提示された内容に関して、事前学習をし、理解を深め、受講者で討議する資料を作成します。  
(5時間×11回)

第13回～15回 自ら選択した小児とその家族の健康課題について、授業で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理し、その解決策を発表資料にまとめてください。(5時間)

**教科書・参考書等**

**【教科書】**

松森直美，蝦名美智子編集：小児看護ケアモデル実践集 看護師が行う子ども目線のプレパレーション，へるす出版，2012年，¥3,000+税.

**【参考書】**

- ・小嶋謙四郎 著：乳児期の母子関係 アタッチメントの発達 第2版，医学書院，1981年，¥4,500+税.
- ・バーバラ・M. ニューマン，フィリップ・R. ニューマン 著 福富護 訳：生涯発達心理学：エリクソンによる人間の一生とその可能性 ，川島書店，1988年，¥6,000+税.
- ・J. Bowlby 著，二木武 監訳：ボウルビィ 母と子のアタッチメント 心の安全基地，医歯薬出版株式会社，1993年，¥2,500+税.
- ・J. Bowlby 著，黒田実郎，大羽素，岡田洋子，黒田聖一 翻訳，I 愛着行動 新版，岩崎学術出版社，1991年，¥10,000+税.
- ・Marshall H. Klaus, John H. Kennell 著，竹内徹，柏木哲夫，横尾京子 翻訳，親と子のきずな，医学書院，1998年，¥3,000+税.

オフィスアワー 講義予定日の18時から22時。また、メール等で適宜受け付けます。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

主体的な学びをもとに授業に参加するとともに、参加者相互で積極的に討論し、論理的思考と表現力の向上を図りましょう。関連する文献は積極的に講読、多読すること。必要に応じて英語論文も講読していただきます。講読する文献に関しては、医学部図書館でガイダンスしていただける医中誌、PubMed等を用いて系統的検索を行い、文献管理ツール（Mendeley等）を利用して効率よく管理してください。

ナンバリングコード M3NRS-BACM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード： 962103) 小児看護学演習 Pediatric Nursing Seminar Pediatric Nursing Seminar	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 谷本 公重	関連授業科目	小児看護学特論、小児看護学特別研究	
	履修推奨科目	看護倫理学、看護研究方法論1、看護研究方法論2、小児看護学特論、小児看護学特別研究	
学習時間 授業90分×30回+自学自習(準備学習60時間+事後学習60時間)			
<b>授業の概要</b> それぞれのテーマに沿って文献をクリティークおよびレビューしつつ、研究テーマの明確化を支援します。さらに、文献検討をすすめて自己の研究方法を具体的に検討し、研究計画書の作成を支援します。なお、院生間の発表、ディスカッションは概念の明確化や論理的表現を助けます。履修者には積極的に参加する事を求めます。			
<b>授業の目的</b> 小児看護分野での主要なテーマに関する論文をクリティーク・レビューし、研究テーマを決定する。そのうえで、研究の基本要件を踏まえて、研究計画書を作成することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 研究の問いに関して文献レビューを行い、研究課題を明確化できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 自己の研究課題を過去の研究の蓄積の中で適切に位置づけることができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 3. 研究課題に応じた適切な研究対象者や研究方法を選択できる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 研究計画書を作成できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 以下の項目から積極性・論理性・理解力・表現力および科学的合理性を評価する。 1. プレゼンテーション資料の作成と発表 (30%) 2. テーマに対する発言と討議内容 (30%) 3. 研究計画書 (40%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回：文献のクリティークとレビュー（復習） 第2回：興味ある量的研究をクリティーク 第3回：興味ある量的研究（英語）をクリティーク 第4回：興味ある質的研究をクリティーク 第5回：興味ある質的研究（英語）をクリティーク 第6回：既読の文献による知見の整理 第7回：リサーチクエッションの明確化 第8回：研究すべき問題の発見 第9回：研究テーマの明確化 第10回：リサーチミーティング：研究テーマ 第11回：研究目的の明確化 第12回：研究目的の文章化 第13回：研究方法の検討—研究デザイン 第14回：研究方法の検討—研究枠組み 第15回：研究方法の検討—仮説の立案 第16回：研究方法の検討—対象の選定、取り込み基準、除外基準 第17回：研究方法の検討—可能性のある対象者への不利益検討 第18回：研究方法の検討—倫理的配慮 第19回：研究方法の検討—分析方法 プロセス 第20回：研究方法の検討—分析方法 信頼性・妥当性・真実性 第21回：分析方法に関する演習—自己の方法に応じて演習 第22回：分析方法に関する演習—質であればインタビュー演習 第23回：分析方法に関する演習—量であれば統計ソフト演習 第24回：リサーチミーティング：研究方法 第25回：研究計画書作成—ひな形の選択			

- 第26回：研究計画書作成—目的・背景・意義・方法  
第27回：研究計画書作成—研究参加への同意を得る方法、同意書・撤回書作成  
第28回：研究計画書作成—データ管理  
第29回：医学部倫理委員会への電子申請  
第30回：リサーチミーティング：進捗状況に関して

**【授業及び学修の方法】**

講義および院生によるプレゼンテーションと討議で展開する。そのため、自学自習による準備・学習が必要です。

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

**【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】**

小児看護分野での主要なテーマに関する論文をクリティーク・レビューし、研究テーマを決定する。そのうえで、研究の基本要件を踏まえて、研究計画書を作成することを目的としています。各回、自己の研究テーマに沿って文献を購読し、医学部倫理委員会への申請する研究計画書その他、関連書類作成までを行う。指導教員および副指導教員の指導を得ながら、進めていく。(4時間×30回)

**教科書・参考書等**

**【教科書】**

- ・Burns N, Grove SK (2005)/ 黒田裕子, 中木高夫, 逸見功訳(2015):バーンズ&グローブ看護研究入門—評価・統合・エビデンスの生成—, エルゼビア・ジャパン.
- ・APA(2010)/前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦訳(2011):APA論文作成マニュアル, 医学書院.
- ・前田樹海, 江藤裕之 (2012):APAに学ぶ看護系論文執筆のルール, 医学書院.

**【参考書】**

- ・Hulley, SB. et al (2007)/木原雅子, 木原正博訳(2014):医学的研究のデザイン(第4版), メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- ・Mitchell HK. (2010)/木原雅子, 木原正博訳(2013):医学的介入の研究のデザインと統計, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- ・Byrne, DW. et al. (1998)/木原正博, 木原雅子訳(2001):国際誌にアプセプトされる医学論文, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- ・Burns N, Grove SK (2005)/ 黒田裕子, 中木高夫, 逸見功訳(2015):バーンズ&グローブ看護研究入門—評価・統合・エビデンスの生成—, エルゼビア・ジャパン.

オフィスアワー 講義予定日の18時から22時。また、メール等で適宜受け付けます。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

講読する文献に関しては、医学部図書館でガイダンスしていただける医中誌、PubMed等を用いて系統的に検索を行い、文献管理ツール(Mendeley等)を利用して効率よく管理してください。

実際に研究に取り掛かるためには、年2回開催される修士論文中間発表会での発表および医学部倫理委員会での申請が必要となります。このことを考慮し、計画的に研究計画を作成することが必要です。

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 962201) 母性看護学特論 Maternal Nursing Theories	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子	関連授業科目	母性看護学演習	
	履修推奨科目	母性看護学演習	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 性の生涯を通じたリプロダクティブヘルス/ライツの概念から、各ライフステージにおける健康問題と課題について理解し、援助の方向性を探求するために、母性看護領域に関連する概念と理論の知識を学習する			
授業の目的 母性看護学領域に関連する理論と知識を学び、女性のライフステージにおける課題探求と問題解決について理解する			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 女性のライフステージにおける健康問題の特徴と課題について説明できる 2. リプロダクティブヘルス/ライツの概念から、女性の健康問題について援助の方向性が説明できる 3. 母性看護領域に関連する概念と理論について説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応)			
成績評価の方法と基準 1. 各課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (40%) 2. 各課題に対する討議内容と参加度 (30%) 3. 最終課題レポート (30%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 講義および院生の課題についてのプレゼンテーションと課題のディスカッション			
第1回 ガイダンスー講義内容と学修方法 第2回 女性のライフステージと健康 第3回 女性のライフステージにおける健康問題の特徴 (思春期・成熟期) 第4回 女性のライフステージにおける健康問題の特徴 (更年期・老年期) 第5回 リプロダクティブヘルス/ライツ 第6回 リプロダクティブヘルスの主要概念ー性感染症, 人工妊娠中絶 第7回 リプロダクティブヘルスの主要概念ー不妊と生殖医療 第8回 リプロダクティブヘルスの主要概念ードメスティックヴァイオレンス, 他 第9回 母性看護学領域に関連する概念と理論ー母性と父性 第10回 母性看護学領域に関連する概念と理論ー母性の発達, 母親役割取得過程 第11回 母性看護学領域に関連する概念と理論ージェンダー, セクシュアリティ 第12回 母性看護学領域に関連する概念と理論ーエンパワーメント, セルフケア 第13回 母性看護学領域に関連する概念と理論ー母子の愛着 第14回 母性看護学領域における倫理的課題 第15回 母性看護学領域における倫理的課題ー生命倫理			
【授業および学修の方法】 毎回課題についてディスカッションしていくので、問題意識をもちながら主体的に課題に取り組むことが必要 【自学自習のためのアドバイス】 第2回～4回 母性看護学に関連する基礎的知識, および健康問題の特徴と課題について紹介できるよう準備する。また、テーマに関連する文献を複数クリティークして紹介する。(3時間 × 3回) 第5回～8回 リプロダクティブヘルスの概念と関連する内容について調べ、紹介できるように準備する。また、テーマに関連する文献を複数クリティークして紹介する。(4時間 × 4回) 第9回から15回 母性看護学領域に関連する概念について調べ、問題と今後の課題について紹介できるように準備する。またテーマに関連する文献を複数クリティークして紹介する。(4時間 × 7回) 最終課題レポート 講義全体をとおしての学びと自ら選択した課題について、さらに文献等を用いてレポートにまとめる。(7時間)			
教科書・参考書等 教科書 なし 参考書			

1. 大日向雅美：[新装版]母性の研究 その形成と変容の過程：伝統的母性観への反証，日本評論社，2016.
2. 鈴木七美：出産の歴史人類学，新曜社，1999.
3. 白井千晶 編：産み育てと助産の歴史，医学書院，2016.

他、適宜講義で紹介していきます。

オフィスアワー 講義終了後，随時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学生は自らに課せられた課題を把握すること

疑問点や質問は教員に尋ねて解決し、主体的に学習をすすめること

課題についてのプレゼンテーションは、文献等で根拠を明らかにした上で行うこと

ナンバリングコード M3NRS-BCAM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 962203) 母性看護学演習 Maternal Nursing Seminar	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 BCAM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子	関連授業科目	母性看護学特論	
	履修推奨科目	母性看護学特論	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習60時間 + 事後学習60時間)			
授業の概要 母性看護学領域における自己の研究課題と研究方法について探求する能力を養う			
授業の目的 本科目では、文献による先行研究の検討から自己の研究課題を見出せることと、自身の研究目的を達成するために適切な研究計画を立案することが目的です。また、自らの研究計画について中間発表等で適切に説明ができ、助言を基に研究計画を発展させ、実施につなげていきます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
研究課題探求期 1. 自身の興味のある課題の現状や研究の動向について、文献をもとにまとめることができる 2. 先行研究について検索し要約することができる 3. 自身のResearch Questionを明確にすることができる 4. 自身の研究目的と研究の意義を見出す  研究計画立案期 1. 研究目的を達成するために適切な研究計画が立案できる 2. 中間発表に向けて準備し発表できる 3. 助言をもとに、研究計画を発展させることができる 4. 研究倫理について考慮し、研究計画を完成することができる			
成績評価の方法と基準 研究課題探求期 1. 各テーマに応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (40%) 2. 各テーマに対する議論の内容と参加度 (10%)  研究計画立案期 1. 中間発表内容 (20%) 2. 研究計画書および倫理委員会申請書類作成 (30%)  形成的評価として、研究課題探求期履修後に面談を行う			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 講義と演習、課題へのプレゼンテーション、ディスカッション  研究計画書を作成する基本的なプロセスについて、各自の研究課題に沿ってプレゼンテーションし、参加者によるディスカッションをとおして理解を深め、研究計画書の作成と研究実施に向けて準備する  本科目には研究課題探求期と研究計画立案期とを設ける  研究課題探求期 第 1回 授業ガイダンス 文献クリティークについて 第 2回 研究計画書作成についてのガイダンス 第 3回 母性看護学領域における研究の動向 (質的研究) 第 4回 母性看護学領域における研究の動向 (量的研究) 第 5回 関心のある母性看護学領域における研究の動向 第 6回 関心のある母性看護学領域の研究論文1ークリティーク 第 7回 関心のある母性看護学領域の研究論文2ークリティーク			

- 第 8回 関心のある母性看護学領域の研究論文3 –クリティーク
- 第 9回 研究課題の明確化1 –目的・意義
- 第10回 研究課題の明確化2 –方法・対象者
- 第11回 研究計画書作成 –研究デザイン・テーマ
- 第12回 研究計画書作成 –主要概念の定義
- 第13回 研究計画書作成 –研究の背景・意義・目的
- 第14回 研究計画書作成 –研究方法・対象者
- 第15回 研究計画書作成 –研究方法・分析方法

研究計画立案期

- 第16回 研究計画書作成 –研究の倫理的課題と倫理的配慮
- 第17回 中間発表に向けての準備
- 第18回 中間発表 –研究計画書の発表
- 第19回 研究計画書の作成 –研究テーマの修正
- 第20回 研究計画書の作成 –背景・意義・目的の修正
- 第21回 研究計画書の作成 –研究方法・対象者の修正
- 第22回 研究計画書の作成 –研究方法・分析方法の修正
- 第23回 研究計画書の作成 –倫理的配慮の修正
- 第24回 倫理審査申請書の作成
- 第25回 倫理審査申請書の作成 –必要書類
- 第26回 倫理審査申請書の修正
- 第27回 倫理審査申請書の修正 –必要書類の修正
- 第28回 研究計画書のまとめ
- 第29回 研究計画書発表
- 第30回 まとめ

【授業および学修の方法】

講義時間だけでは熟考された研究計画立案は難しいため、主体的な自学自習をおこなう。

【自学実習のためのアドバイス】

研究課題探求期

- 第2回～4回 母性看護学領域で行われている研究の概要を把握するために、質的・量的研究論文を検索し整理して紹介できるよう準備する。(10時間)
- 第5回～8回 関心のあるテーマに関連した論文をクリティークして紹介する。(20時間)
- 第9回～15回 自身の研究テーマを絞りこみ、合わせて研究方法論に関する知識を深めていく。(20時間)

研究計画立案期

- 第16回～18回 研究テーマと目的に基づいた研究計画を中間発表会で発表するための準備を進める。(20時間)
- 第19回～23回 中間発表会で得た助言等を基に、再度研究計画書を見直し修正していく(20時間)
- 第24回～27回 倫理審査申請に向けてあらかじめ必要となる書類を確認し、書類を作成していく。(20時間)
- 第28回～30回 中間発表会の内容と倫理審査申請書に基づき、研究実施のための準備を進める(10時間)

教科書・参考書等

参考書

1. D.F. ポーリット/C.T. ベック, 近藤潤子監訳: 看護研究 –原理と方法(第2版), 医学書院, 2010.
2. キャロル・ガービッチ, 上田礼子他訳: 保健医療職のための質的研究入門, 医学書院, 2003.
3. 谷津裕子: Start Up質的看護研究 第2版, 学研, 2015.
4. I. ホロウエイ S. ウイラー, 野口美和子監訳: ナースのための質的研究入門第2版, 医学書院, 2006.
5. 戈木クレイグヒル滋子: 質的研究方法ゼミナール, グランデットセオリー・アプローチを学ぶ, 第2版, 医学書院, 2013.
6. 山本則子, 萱間真美他: グランデットセオリー法を用いた看護研究のプロセス, 文光堂, 2002.
7. APA(アメリカ心理学会), 前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦訳: APA論文作成マニュアル第2版, 医学書院, 2011.

\* 随時提示する

オフィスアワー 講義終了後, 随時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本科目には研究課題探求期と研究計画立案期とを設ける  
 形成的評価として、研究課題探求期履修後に面談を行う  
 面談の結果、研究課題探求期の延長を申し渡す場合がある  
 研究計画立案期の履修時に中間発表を行う

講義時間だけでは熟考された研究計画立案は難しい  
学生は自主的・積極的にすすめていくこと

国内外の看護系学会に積極的に参加すること  
最新の研究動向やプレゼンテーションの実際を学ぶことで、研究能力育成を期待する



ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 962311) 老年看護学特論 老年看護学特論 Gerontological Nursing Theories	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 山本 美輪	関連授業科目	老年看護学演習、特別研究	
	履修推奨科目		
学習時間 講義 90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 超高齢社会である日本において、人間発達や全人的な見方について文献から学び、老年期の発達課題に焦点を当てて学びを深める。そして、加齢に伴う変化からのアセスメントを基礎とした高齢者の全人的理解から、現在起こっている高齢者問題や認知症高齢者またその家族への対応、高齢者問題に潜む倫理的問題や予測されるリスクについてその背景や、介護予防・認知症予防等のグッドエイジングも含めて学ぶことで老年看護のあり方や認知症高齢者の専門的ケアについて探求する。			
<b>授業の目的</b> 高齢者を人間発達の視点で捉え、高齢者とその家族も看護の対象であることを理解するために、重要な専門的知識や理論 (DPの「専門知識・理解」に対応) について学び人間発達の視点に立ち、高齢者を援助する方法について考える。また、高齢者とその家族を援助する上で必要な専門的知識や理論について学ぶ。認知症ケアや介護予防・認知症予防、地域包括ケアシステムにおける老年看護や認知症高齢者の専門的ケア (DPの「グローバルマインド」「倫理観・社会的責任」に対応) のあり方について探求する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 高齢者について、人間発達の視点から説明できる。 2. 高齢者とその家族の理解を促す専門的知識や理論について説明できる。 3. 人間発達の視点を踏まえ、高齢者とその家族への援助について説明できる。 4. 理論に基づく高齢者とその家族への援助について説明できる。 5. 地域包括ケアシステムにおける老年看護について説明できる。 6. 認知症高齢者の専門的ケアの考えを説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> プレゼンテーションの内容、授業での発言内容50%、課題レポート50%で評価する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 講義、テーマに基づいた院生のプレゼンテーション、テーマに関するディスカッション、レポート			
第1回 オリエンテーション 人間発達・高齢者の全人的な見方について 山本 第2回 老年期の心理社会的課題の理論 山本 第3回 老年期の心理社会的課題、地域包括ケアシステムに関する研究 山本 第4回 高齢者体験・加齢に伴う身体的変化 山本 第5回 高齢者の生活評価 ADL/IADL、運動機能 山本 第6回 高齢者の生活評価 ADL/IADLへの援助・福祉機器 山本 第7回 介護予防・高齢者へのアクティビティケア 山本 第8回 認知症高齢者ケア・アルツハイマー型認知症 山本 第9回 認知症高齢者の家族への看護 山本 第10回 認知症高齢者ケア・レビー小体型認知症 山本 第11回 認知症高齢者ケア・前頭側頭型認知症 山本 第12回 高齢者看護における倫理的問題 山本 第13回 老老介護・認知介護・介護殺人 山本 第14回 高齢者の死生観 山本 第15回 老年期にいる高齢者の対象理解・援助のあり方のまとめ 山本			
<b>レポート作成</b> 以上の評価に関しては、進捗状況、内容の理解度によって変更することがある。			
第1回～3回：高齢者における文献・テキストを用いて講義形式で行う。第4回～7回：講義・演習形式で行う。 第8回～15回：動画・文献を用いてディスカッションを主体とし、学生のプレゼンテーションを含めながら進める。第1回～15回の理解を助け深めるため教科書の指示する動画を視聴して講義に参加するのが望ましい。			
<b>【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】</b> (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			

\*この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。

教科書・参考書等

教科書・参考書等

教科書 これからの高齢者 ケア～知る・織る・共感する, 山本美輪, 前川泰子, 松井幸子, シービーアール, 2018年, 2750円

オフィスアワー 火曜日17時から18時30分

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

研究テーマや実践の中から、関心を持ち、積極的に討論に参加して、人間発達や高齢者の全人的な見方や高齢者看護における倫理的問題について関心を持って欲しい。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 962312) 老年看護学演習 老年看護学演習 Gerontological Nursing Seminar	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 山本 美輪	関連授業科目	老年看護学特論、特別研究	
	履修推奨科目	看護研究方法論、看護研究特論	
学習時間 授業 90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習60時間 + 事後学習60時間)			
授業の概要 研究の概要について理解を深めた上で、様々な視点から研究テーマを検討し、研究テーマを絞り込む。研究に用いられる概念に基づいた文献検討を行い、その概念に関する研究について見識を深め、研究方法を検討する。研究計画書の作成を行い、中間発表により得られた意見も参考に研究計画書を修正する。			
授業の目的 老年看護学領域の対象とその家族が置かれている状況や体験について学ぶと共に、老年看護学領域の対象とその家族の看護及び援助の実態 (DP「専門的知識・理解」に対応) について学ぶ。その中で、修士論文のテーマを明らかにし、研究テーマに関連する文献検討を行い研究方法を検討し、修士論文の計画書の作成 (DP「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) をめざす。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 関心のある老年看護学における対象の体験や看護の実態について説明できる。 2. 研究テーマに関連する文献検討を行い、修士論文のテーマを決めることができる。 3. 研究テーマに適切な研究方法を説明できる。 4. 計画する研究に必要な倫理的配慮について説明できる。 5. 修士論文の計画書を作成できる。			
成績評価の方法と基準 レポート20%、計画書80%で評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 オリエンテーション 山本 第2回 研究計画書の作成方法-使用する文献等を決める 山本 第3回 研究計画書の作成方法-テーマを定める方法を考える 山本 第4回 研究計画書の作成方法-研究方法を決める方法を考える 山本 第5回 研究計画書の作成方法-倫理的配慮を考える 山本 第6回 文献批判による内容の把握-研究の背景 山本 第7回 文献批判による内容の把握-研究テーマ 山本 第8回 文献批判による内容の把握-研究方法 山本 第9回 文献批判による内容の把握-論理の一貫性 山本 第10回 研究テーマに関する検討-研究成果 山本 第11回 研究テーマに関する検討-研究成果のまとめ 山本 第12回 研究テーマに関する検討-論理の一貫性 山本 第13回 研究テーマに関する検討-研究の意義 山本 第14回 研究テーマに関連する文献検討-論理的展開 山本 第15回 研究テーマに関連する文献検討-対象 山本 第16回 研究テーマに関連する文献検討-研究方法 山本 第17回 研究テーマに関連する文献検討-倫理的配慮 山本 第18回 研究計画書の作成 (研究テーマ) 山本 第19回 研究計画書の作成 (研究の背景・意義) 山本 第20回 研究計画書の作成 (研究の目的) 山本 第21回 研究計画書の作成 (研究の方法) 山本 第22回 研究計画書の作成 (研究の倫理的配慮) 山本 第23回 中間発表 山本 第24回 研究計画書の作成 (研究テーマの修正) 山本 第25回 研究計画書の作成 (研究の背景・意義の修正) 山本 第26回 研究計画書の作成 (研究の目的の修正) 山本 第27回 研究計画書の作成 (研究の方法の修正) 山本 第28回 研究計画書の作成 (研究の倫理的配慮の修正) 山本 第29回 研究計画発表 山本 第30回 研究計画書のまとめ・提出 山本			

**【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】**

(準備学習60時間 + 事後学習60時間)

\*この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。

**教科書・参考書等**

教科書 特になし

参考書 看護研究 第2版—原理と方法 (日本語), D. Fポーリット, C. Tベック (著), その他, 医学書院, 10450円

オフィスアワー 火曜日17時から18時30分

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

関心のあるテーマに主体的に取り組んで欲しい。

ナンバリングコード M3NRS-BACM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード： 963003) 地域看護学演習 Community Health Nursing Seminar	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子	関連授業科目	看護研究方法論 1, 看護研究方法論 2	
	履修推奨科目	地域看護学特論	
学習時間 授業90分×30回+自学自習(準備学習53時間+事後学習50時間)			
<b>授業の概要</b> 地域を基盤とした公衆衛生看護活動の展開を効果的, 効率的に行うために, 実践の中から解決すべき事象や疑問, 今後の方向性, 新しい手法などを見出すことを目指し, 自らの研究課題を焦点化していけるように段階的に進めます。 理論と実践を融合しながら, 文献学習と合わせて研究課題を明確にし, 研究課題解決に向けて効果的な研究方法をディスカッション等により探究していき, こういったプロセスから研究計画書の作成支援を行います。			
<b>授業の目的</b> 1. 公衆衛生看護における健康課題について, 文献検討及びクリティークを通じて, 研究課題の焦点化を行うことができる。 2. 自らの研究課題を解決するための妥当な研究方法を理解し, 研究計画書を作成することができる。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 先行研究の動向を文献レビューを行い, 研究課題を明確にできる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。 2. 研究課題を解決するために必要となる研究方法について学び, 説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 3. 研究において必要な主要概念となる用語について定義し説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 4. 研究課題の解決に適した研究方法を根拠を示して説明できる (Dpの「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 研究計画書を作成できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席状況および主体的参加状況 (10%), 発表資料 (20%) 研究計画書の完成度 (70%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 研究計画書を作成するにあたり, 基本となる知識や各自でまとめた資料を発表しながら, ディスカッションを通して理解を深めていきます。			
第1回 ガイダンス 研究計画書作成のための導入 芳我 第2～5回 公衆衛生看護学における研究論文クリティーク 芳我, 辻 第6回 論文作成のためのTips 芳我, 辻 第7～10回 リサーチクエスチョンに関連した文献検索 芳我, 辻 第11回 研究課題の明確化 芳我, 辻 第12回 研究方法の検討; 研究デザイン 芳我, 辻 第13回 研究方法の検討; 概念規定, 枠組み 芳我, 辻 第14～15回 研究方法の検討; 研究背景, 意義, 目的 芳我, 辻 第16～19回 研究方法の検討 芳我, 辻 第20～29回 研究計画書の作成および修正 芳我, 辻 第30回 まとめ 芳我, 辻			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クリティークをする研究論文を自ら探し, クリティークを行いまとめて発表する (16時間)</li> <li>・リサーチクエスチョンに関する文献検索とまとめ (20時間)</li> <li>・研究課題の明確化 (6時間)</li> <li>・研究方法の検討に関する資料検索, 準備 (21時間)</li> <li>・研究計画書作成及び修正, 文献検索 (40時間)</li> </ul>			
教科書・参考書等			

教科書 ・看護における研究 最新版 南裕子・野嶋佐由美編集，日本看護協会出版会
参考書 ・よくわかる看護研究論文のクリティーク Critique 山川みやえ・牧本清子編著，第1版第5刷，日本看護協会出版会，2018
・これからの看護研究―基礎と応用― 第3版 小笠原知枝・松木光子編集，ヌーベルヒロカワ，2015
オフィスアワー 授業終了後1時間
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ご自身の研究テーマに関する文献や書物を系統的に探し、批判的吟味（クリティーク）を通して論文の書き方を学びましょう。 感染症拡大状況に応じて、オンライン授業とします。適宜，こちらから連絡いたしますが，事前に確認するようにしてください。

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 963005) 地域看護学特論 Community Health Nursing Theories Community Health Nursing Theories	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子	関連授業科目	看護研究方法論 1, 看護研究方法論 2, 理論看護学, 看護倫理学	
	履修推奨科目	地域看護学演習	
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習23時間+事後学習15時間)			
授業の概要 個人や家族・特定集団等によって構成されている地域全体を対象として、地域全体の健康水準の向上を目指す公衆衛生看護活動の専門性について理解を深めます。そのために、基盤となる理論及びモデルを多角的に学修し、新たな公衆衛生看護の視点、技術、展開方法等を探索していきます。授業は、講義とディスカッションにより進めていきます。テーマに関して、各自での主体的な学びを前提に進めていきます。			
授業の目的 あらゆる人を対象とする地域において、健康の社会的決定要因及び健康課題に対応するための資源や法令、制度について理解し、公衆衛生看護活動の専門性を発揮できるよう主要理論を学修し、実践活動への応用を学ぶ。 研究の一連の過程を通して公衆衛生看護管理としての地域を把握し、健康課題を見出し、解決するための思考過程を修練することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 社会環境の変化と健康課題について説明できる (DP「専門知識・理解」に対応)。 2. 健康課題に対応するための資源や法令、制度について説明できる (DP「専門知識・理解」に対応)。 3. 公衆衛生看護活動を行うための主要理論について説明できる (DP「研究能力・応用力」に対応)。 4. 公衆衛生看護管理の機能について理解し、説明することができる (DP「倫理観・社会的責任」に対応)。			
成績評価の方法と基準 主体的参加状況(プレゼンテーション等)等(40%)、課題レポート(50%)、文献リスト(10%)から評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 ガイダンス 社会環境の変化と健康課題, 健康の社会的決定要因 芳我 第2回 公衆衛生看護活動の歴史的変遷と法・制度 芳我 第3回 公衆衛生看護の理念と保健師倫理, 公衆衛生看護と地域看護の概念整理 芳我 第4回 公衆衛生看護活動のための主要理論 (1) ―ヘルスプロモーション, 家族システム理論等 辻 第5回 公衆衛生看護活動のための主要理論 (2) ―コミュニティアズパートナーモデル 辻 第6回 公衆衛生看護活動のための主要理論 (3) ―プリシード・プロシードモデル他 芳我 第7回 公衆衛生看護活動のための主要理論 (4) ―行動変容, グループダイナミクス他 芳我 第8回 公衆衛生看護活動のための主要理論 (5) ―マネジメント, リーダーシップ論 芳我 第9回 健康格差社会への対応 芳我 第10回 地域包括ケアシステム及びソーシャルキャピタル 辻 第11~14回 自らの実践における課題の検討 第15回 まとめ 芳我, 辻			
【自学自習のためのアドバイス】 ・テーマに沿って、各自で理論について調べ、プレゼンする(15時間) ・自らの実践について振り返り、レポートする(15時間)			
教科書・参考書等 教科書 特に指定しないが、随時、紹介する。 参考書 ・コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際 第2版第6刷, エリザベスT.アンダーソン, ジュディス・マクファーレン編集 金川克子・早川和生編集, 医学書院 2015 ・健康格差対策の進め方 効果をもたらす5つの視点, 近藤尚己, 医学書院, 2016			
オフィスアワー 随時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			

自ら学ぶ姿勢を持ち、ディスカッションを積極的に参加するとともに質問力を磨いていきましょう。  
感染症拡大状況に応じて、オンライン授業とします。適宜、連絡をしますが、事前に確認するようにしてください。



ナンバリングコード M3NRS-BCAM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード： 963103) 在宅看護学演習 Seminar in Home Care Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 BCAM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 松本 啓子	関連授業科目	在宅看護学特論、在宅看護学特別研究	
	履修推奨科目	看護研究方法論、看護倫理学	
学習時間 授業90分×30回 + 自学自習 (準備学習60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 学生の関心領域に沿って、先行研究の動向を調べ、文献レビューを行うよう指導する。学生が興味を持つ研究課題を明確にし、研究目的の明確化、研究対象の選定、概念モデルの作成、分析方法など研究計画書の概要を作成するよう指導する。			
授業の目的 ① 在宅看護学分野における学生自身の関心領域の論文を読み、適切なキーワードを明らかにする。 ② 在宅看護学分野における学生自身の関心領域の論文をクリティークし、クリティークの方法を理解する。 ③ 文献レビュー、クリティークを行い、研究課題を明確にする。 ④ 研究課題および研究目的を明確にする。 ⑤ 研究目的に沿った研究対象、研究方法を検討し、研究計画を立てる。 ⑥ 本授業で自身の研究計画をプレゼンテーションし、研究計画の修正を行う。 ⑦ 修士論文中間発表会においてプレゼンテーションを行い、批判的意見を収集し、研究計画を修正する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 自己の関心領域について、適切なキーワードを述べるができる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 2. 自己の関心領域に関する先行研究を収集することができる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 3. 先行研究のレビュー、クリティークを行い、文献レビューをまとめることができる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 4. 自己の関心領域の中で、研究課題の位置づけを明確に示すことができる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。 5. 自己の関心領域に関する論文の研究目的を明確に示すことができる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。 6. 研究目的に応じた適切な研究対象や研究方法を選択できる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。 7. 学生の関心に沿った研究計画書を作成できる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。 8. 研究計画を公開発表会でプレゼンし、研究の質を向上するために意見を収集し、研究計画書を修正できる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 評価は、演習授業におけるプレゼンテーション内容30%、参加状況30%、作成された研究計画書の内容40%により総合的に評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 在宅看護関連の論文クリティーク 第2回 研究プロセスの理解 第3回 論文クリティークの意義と実践 第4回 論文クリティーク演習1：質的研究のクリティーク 第5回 論文クリティーク演習2：量的研究のクリティーク 第6回 文献レビューについて：論文クリティークの内容の文章化 第7回 リサーチ・クエスチョンについて 第8回 研究テーマの明確化 第9回 論文クリティーク演習3：研究テーマ関連の論文 第10回 論文クリティーク演習4：より広範囲での関連を探求する 第11回 知見の整理 第12回 リサーチ・クエスチョンから研究仮説へ 第13回 研究課題の抽出 第14回 研究目的について 第15回 概念モデルについて 第16回 概念モデル演習1：作成の手順			

- 第17回 概念モデル演習2：実践
- 第18回 研究目的の明確化
- 第19回 研究目的に沿った概念枠組みの明確化
- 第20回 研究デザインの明確化
- 第21回 研究対象の選定とその方法
- 第22回 分析方法の明確化
- 第23回 研究の信頼性と妥当性、信用性、信用可能性について
- 第24回 研究計画書の機能と内容
- 第25回 研究計画書作成演習1：背景と重要性
- 第26回 研究計画書作成演習2：文献レビューの作成、予備研究について
- 第27回 研究計画書作成演習3：倫理的配慮について
- 第28回 研究計画書作成演習4：作成と検討
- 第29回 修士論文中間発表会におけるプレゼンテーションの準備演習
- 第30回 修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション

**【授業及び学修の方法】**

講義及び院生によるプレゼンテーションと討議で展開する。

**【事前学修及び事後学修のためのアドバイス】**

第2回～第6回 論文の読み方、クリティークのために自己の課題に沿った論文の検索方法など授業で意見や質問ができるように準備しておく。

第7回～第13回 自己の研究課題の明確化に向けて、論文検索を通して課題に沿った論文を準備する。

第14回～第17回 研究課題に沿った手順について授業で紹介できるように準備しておく。

第18回～第24回 研究の進め方を自分なりに考察しておく。

第25回～第28回 プレゼンテーションに向けての準備しておく。

第29回～第30回 有意義な発表となるように課題における示唆や捉えを考察しておく。

なお、授業は対面を予定していますが、その時の状況により、遠隔授業へと変更になる可能性があります。事前に、大学からのお知らせ等の確認するようにしてください。

**教科書・参考書等**

教科書、使用しない

参考書

- ・松村 真司著、概念モデルをつくる、NPO法人健康医療評価研究機構
- ・中木 高夫／川崎 修一訳、看護における理論構築の方法、医学書院
- ・山田智恵里監訳、看護の重要コンセプト20：看護分野における概念分析の試み、エルゼビア・ジャパン
- ・石井京子、ナースのための質問紙調査とデータ分析、第2版、医学書院
- ・野口 美和子、監訳、ナースのための質的研究入門 研究方法から論文作成まで、第2版、医学書院
- ・古谷野亘、長田久雄、実証研究の手引き 調査と実験の進め方・まとめ方、ワールドランニング
- ・中山和弘、看護学のための多変量解析入門、医学書院
- ・山川みやえ・牧本清子、よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会
- ・足立はるゑ、看護研究サポートブック、メディカ出版

オフィスアワー 随時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学生の専門領域と在宅看護を関連させて探求すること

ナンバリングコード M2NRS-ACBM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 963105) 在宅看護学特論 Advanced Home Care Nursing Advanced Home Care Nursing I	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ACBM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 松本 啓子	関連授業科目	在宅看護学演習、在宅看護学特別研究、精神看護学特論、看護教育学	
	履修推奨科目	看護研究方法論1・2、看護医科学特論	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 在宅看護学に関して、学生の興味に沿った課題で授業を展開する。日本における在宅療養者支援の制度や支援方法を学び、実践の在り方およびその教育について討議する。また、在宅看護学の研究に必要なことを理解するために授業を展開する。課題に関する文献を素材にして話し合い、課題への理解を深める授業を行う。			
<b>授業の目的</b> 在宅療養者および家族の健康を支援するために必要な看護の在り方を考える。在宅看護の特徴、ケアマネジメント、チームアプローチに関する基本的知識を理解し、地域・在宅ケアについて考える。在宅看護や関連領域の文献を用いた発表や話し合いを通して、在宅特有の支援方法と課題を明確にし、今後の在宅医療と看護の在り方について探究することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 学生の関心領域について、明確に述べるができる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 2. 学生の関心領域に関する文献を検索し、提示できる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 3. 学生の関心領域に関する文献を読み解き、在宅看護の課題として提示できる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。 4. 在宅療養者支援の現状と課題について述べるができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。 5. 在宅療養者支援の質向上を目指した教育の現状と課題について述べるができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 評価は、1. テーマに応じたプレゼンテーション内容30%、2. 討議の参加度と深さ40%、3. 提出レポート30%により総合的に評価する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 ガイダンス、在宅看護の対象 第2回 日本の在宅看護の歴史と変遷 第3回 在宅療養者の特徴 第4回 在宅療養者支援のアセスメント内容 第5回 ケアマネジメント理論 第6回 看護とケアマネジメント 第7回 多職種との連携とチームアプローチ 第8回 チームアプローチの質評価 第9回 在宅療養者支援におけるチームアプローチ研究 第10回 訪問看護の質評価・ケアの質評価と改善方法 第11回 在宅看護の現状と在宅看護の展望 第12回 地域包括ケアの推進と在宅看護 第13回 在宅看護学教育の現状と展望 第14回 在宅看護学研究的動向と展望 第15回 まとめ			
<b>【授業及び学修の方法】</b> 提示されたテーマから、学生個々の興味に沿ったプレゼンテーションをもとに、ディスカッションを行う。			
<b>【事前学修及び事後学修のためのアドバイス】</b> 第2回～第4回 在宅療養者を中心としたケアの実際に関する情報の整理をするために考察する。 第5回～第9回 チームアプローチの視点からIPWの実際に関する情報収集をする。 第10回 在宅看護の評価に関する課題の考察をする。 第11回～第15回 在宅看護に絡む実践と教育、研究との接点について考察する。			
なお、授業は対面を予定していますが、その時の状況により、遠隔授業へと変更になる可能性があります。事前に、大学からのお知らせ等の確認するようにしてください。			

教科書・参考書等

教科書 なし

参考書

- ・公益法人日本看護協会編、最新版看護白書、訪問看護の新たな展開、日本看護協会出版会
- ・在宅ケア学会編、在宅ケア学（全6巻）、ワールドプランニング、2015。
- ・エイミー・Cエドモンドソン、野津智子訳、チームが機能するとはどういうことか、英治出版
- ・石垣和子、上野まり、看護学テキストNICE、在宅看護論、南江堂

オフィスアワー 授業の前後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学生の専門分野及び関心領域と地域・在宅看護を関連させて探求すること

ナンバリングコード M2NRS-abcM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 963201) 精神看護学特論 Advanced Psychiatric Mental Health Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 abcM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 渡邊 久美	関連授業科目	精神看護学演習	
	履修推奨科目	看護倫理学、理論看護学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 我が国の精神保健の制度と現代社会における諸課題を概観した後、対人援助職としての自己成長を促すため、自己の専門領域における哲学的基盤を洞察し、援助者としての自身のあり方を見つめる。 セルフケア理論や認知行動療法など精神保健看護臨床で用いる諸理論を学ぶとともに、事例検討等により精神健康に障害をもつ人とその家族への支援のあり方について検討する。精神科での疾病概念や治療法の変遷を踏まえつつ、医療と福祉の調整役割を担う看護の必要性について検討し、家族や多職種とのパートナーシップ形成に基づくケアのあり方を探求する。			
<b>授業の目的</b> 我が国の精神保健福祉施策の動向を理解することで、スティグマや偏見などの現代社会における精神障害者をとりまく課題を理解する。精神保健を実践する援助者には対象の理解は言うに及ばず、自己の理解も求められる。自己の理解のために、書籍の輪読を通して哲学的基盤を養うことを目的とする。 また、精神看護の専門性に根差し、対象のストレス緩和から自己実現までを支援するアプローチ法、ケアモデルの開発に向け、既存の理論や先行研究、事例検討に基づき、日本人の特性に添ったケアの在り方を探求する。(以上DPの「専門知識・理解」、「研究能力・応用力」、「倫理観・社会的責任」に対応する)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 日本の精神障害者の処遇及び法制度の変遷を理解できる。 2. 現代社会における精神保健の現状と課題について説明できる。 3. 援助者としての自己を見つめ、哲学と看護を結び付けて考えることができる。 4. 精神科臨床における看護アプローチ法やモデル開発に向けた研究方法を理解できる。 5. 特に地域精神保健福祉における当事者の生活や就労支援について、多職種や家族との協働に関する看護の課題を述べるができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 各回のプレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートから総合的に評価する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
第1回 ガイダンス・健康の定義、精神の健康とは、精神看護の目的 第2回 精神保健予防活動について-1次、2次、3次予防 第3回 精神保健福祉の歴史の変遷と法制度 (1) 精神保健福祉法 第4回 精神保健福祉の歴史の変遷と法制度 (2) 障害者総合支援法、その他 第5回 現代のメンタルヘルスに関する諸問題 (1) 児童思春期の問題 第6回 現代のメンタルヘルスに関する諸問題 (2) 成人・老年期の問題 第7回 精神看護の哲学的基盤 (1) -精神看護の役割とは 第8回 精神看護の哲学的基盤 (2) -無意識、防衛機制と対象理解 第9回 精神看護の哲学的基盤 (3) -実存的ケア、現象学的アプローチ 第10回 精神看護の主要理論 (1) -セルフケア看護理論 (オレム-アンダーウッド) 第11回 精神看護学の主要理論 (2) -ストレングスモデル、リカバリー 第12回 精神看護臨床における当事者へのアプローチ法 (1) -認知行動療法 第13回 精神看護臨床における当事者へのアプローチ法 (2) -オープンダイアログ 第14回 精神保健福祉における多職種との協働 -障害者の就労支援を考える 第15回 まとめ			
<b>【自己学習】</b> 準備2時間、事後学習2時間の4時間、計60時間 精神看護学領域では、病気や症状を見る科学的な視点と、対象と自己との関係性における自己理解に加えて、ケアの対象となる人の誕生からのヒストリーを捉え、人生の文脈の中で生きる意味をみつめていくスピリチュアルな視点など、様々な観点から人間について考えていくこととなります。 また、地域社会の中で、個人、家族、組織において成長発達していく存在であり、生命論、人生論、宇宙論まで幅広い視野で、東洋西洋の文化比較や歴史の変遷を概観することで、文明の帰路にある現代において、なすべ研究や論文以外の書籍、特に名著とされる書籍や哲学的な書籍にも触れ、自ら、自己の芸術的感性を養うことも必要です。授業中に紹介する書籍や、参考図書を活用しながら、精神看護学の思索を深めていくことができるよう努めてください。			

教科書・参考書等

教科書なし

参考書

吉川悟編：システム論からみた援助組織の協働、金剛出版

ジェイムス・プロチャスカ著、中村正和監訳：チェンジング・フォー・グッド、法研

南裕子、稲岡文昭監修：セルフケア概念と看護実践、へるす出版

林峻一郎編・訳：ストレスとコーピング ラザルス理論への招待、星和書店

ミシェル・フーコー著、田村俣訳：狂気の歴史—古典主義時代における—、新潮社

ジョン・G・ワトキンス：治療的自己—治療を効果的に進めるための医療者の心得—、アドスリー

高崎絹子：看護援助の現象学、医学書院

執行草舟：生きる、講談社

執行草舟：根源へ、講談社

その他、授業で適宜紹介する。

オフィスアワー 月曜日午後5時～6時30分

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自らの研究動機を大切にして「問い」をもち続け、精神保健の歴史や文化的背景を踏まえつつ、時代に求められる看護を探究し、現場の課題から研究課題（Research Question）の明確化につなげていきましょう。

ナンバリングコード M3NRS-abcM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 963202) 精神看護学演習 Psychiatric Mental Health Nursing Seminar	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 abcM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 渡邊 久美	関連授業科目	精神看護学特論、特別研究	
	履修推奨科目	看護研究特論	
学習時間 授業 90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習60時間+事後学習60時間)			
<b>授業の概要</b> 精神看護学領域における研究課題について、個々人の動機や関心に基づき、様々な視点で研究テーマを検討し、研究目的を明確化し、目的を達成する方法を検討していく。 具体的には、研究テーマに関する先行研究を幅広く概観して、これまで得られている知見を整理し、研究に用いる概念や方法論を批判的に文献から検討、収集し、先行研究を参考に、研究デザイン、概念枠組みを規定し、研究方法を構築していく。 最終成果物として、研究計画書の作成を行い、中間発表により得た意見を参考にして、研究計画書を修正する。また、研究の着想から計画段階までのプレゼンテーション力を養成する。			
<b>授業の目的</b> 精神看護の対象となる当事者及びその家族の置かれている状況を理解するにあたり、個人的な経験則や理解から、先行研究や基盤となる哲学などに視野を広げ、当事者への看護に資する疑問を、研究的手法により解明する方法を多角的に検討する。既に明らかにされている知見や理論を掌握し、修士論文における研究目的(リサーチクエスチョン)を決定するため、さらに研究テーマに焦点をあてた文献検討を行う中で、新規性のある研究テーマを設定する。 研究実施前に、学位論文として相応しい研究の到達点、限界を踏まえた研究計画を立案できる能力を重視し、研究目的に応じた、質的帰納的研究・量的研究を選択して、対象のサンプリング段階から結果報告まで、倫理的配慮を重視した詳細な研究方法を検討し、研究計画書を作成する。 (以上、DPの「研究能力・応用力」、「専門知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応する)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 精神看護の対象となる当事者とその家族が置かれている状況や体験を説明できる。 2. 精神看護の対象となる当事者とその家族への看護について説明できる。 3. 修士論文のテーマ及びリサーチクエスチョンを述べるができる。 4. 研究テーマに関連する文献検討を順序立てて記述し、研究目的へと展開できる。 5. 修士論文の計画書を、先行研究における諸理論を援用して作成できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 各回の発表内容、参加状況、課題 レポート (一貫性・論理性・発展性) と修士論文の計画書を総合的に評価する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 講義、テーマに基づいた院生のプレゼンテーション、テーマに関するディスカッション、レポート  第1回 オリエンテーション 第2回 文献クリティーク (日本における現状と課題) 第3回 文献クリティーク (諸外国の現状と課題) 第4回 文献クリティーク (自己の経験に基づく課題の整理) 第5回 文献クリティーク (首尾一貫性の確認、用語の定義の検討) 第6回 文献クリティーク (研究デザインとエビデンスレベル) 第7回 文献クリティーク (サブストラクション) 第8回 文献クリティーク (社会的意義の観点から) 第9回 研究テーマ検討 (周辺領域との比較) 第10回 研究テーマ検討 (Research Questionの検討; 上位目標の確認) 第11回 研究テーマ検討 (Research Questionの検討; 研究目的の明確化) 第12回 研究テーマに関連する文献検討 (研究方法; 質的研究の種類) 第13回 研究テーマに関連する文献検討 (研究方法; 質的研究/M-GTAを中心に) 第14回 研究テーマに関連する文献検討 (研究方法; 量的研究/理論的枠組み) 第15回 研究テーマに関連する文献検討 (研究方法; 量的研究/研究デザインと統計処理) 第16回 研究テーマに関連する文献検討 (研究方法; プログラム評価の理論) 第17回 研究テーマに関連する文献検討 (研究方法; プログラム評価の方法) 第18回 研究計画書の作成 (研究テーマの検討) 第19回 研究計画書の作成 (研究の背景・意義の検討) 第20回 研究計画書の作成 (研究の目的の検討) 第21回 研究計画書の作成 (研究の方法の検討) 第22回 研究計画書の作成 (研究の倫理的配慮の検討)			

- 第23回 中間発表
- 第24回 研究計画書の作成（研究テーマの修正）
- 第25回 研究計画書の作成（研究の背景・意義の修正）
- 第26回 研究計画書の作成（研究の目的の修正）
- 第27回 研究計画書の作成（研究の方法の修正）
- 第28回 研究計画書の作成（研究の倫理的配慮の修正）
- 第29回 研究計画発表
- 第30回 まとめ

**【準備学修に必要な学修時間の目安】**

最低限、1-30回まで、前後2時間 計4時間（120時間）以上は自習学習にあてる。

精神看護学演習では、研究計画立案の過程において、先行研究を批判的に分析して、研究していくテーマに関して、これまで明らかになっている知見を明らかにし、社会的課題を解決していくために、何をどのように研究的に取り組むことに意義があるかを探求していく。論文は適宜、多読、精読して先行研究を網羅し、追究する研究分野の動向は、国内のみならず国際的動向も鑑み、着手する研究の立ち位置を定めていく。このため、文献を検索し、内容を理解し、データベースを作成するなどの基本的で地道な作業ができる力、これらを要約して問題点を見出すことのできる力、研究者としての発想・着想を言語化する力、他者に伝える発表資料の創意工夫と発信力を養うために必要な時間を、各自、確保すること。

科学的に物事を捉え、論理的に思考し、表現力を高めるため、多くの関連文献のinput、outputをゼミで繰り返して発表していく。教科書は、各回の該当箇所（研究目的、方法論の検討など）を進めていく上で、「研究テーマを考えるためのチェックリスト等」が提示されているので、参考にされたい。

**教科書・参考書等**

**【教科書】**

近藤克則：研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」、医学書院、2018

**【参考書】**

山川みやえ、牧本清子：研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会、2014

バーンズ&グローブ：看護研究入門ー評価・統合・エビデンスの生成、エルゼビアジャパン、2015

ポーリット、ベック：看護研究ー原理と方法、医学書院、2010

オフィスアワー 月曜日午後5時～6時30分

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

関心のあるテーマの国内外の研究成果に着目し、その背景や周辺領域にも視野を広げていきましょう。また、特に引用する文献や関連性の高い研究の内容について、演習での発表資料や討議では、自身の言葉で他者に説明できるよう、意識していきましょう。

報告書等による実態調査やエビデンスを押さえると同時に、数値化できない事例研究からも看護現象を読み取る力を養いましょう。先人の蓄積してきた研究から学び、精神保健医療福祉領域における様々な価値観の中で、看護研究者として責任を持って取り組んでいくべきテーマは何か、その研究が看護にどう役立つのか、自身の看護職としてのアイデンティティと対話しつつ、自ら学ぶ姿勢で臨んでください。



ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード： 964001) 助産学特論 I (助産学概論) Midwifery I: Introduction to Midwifery 助産学特論 I (助産学概論)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子, 小松 千佳	関連授業科目	助産学特論 II - V	
	履修推奨科目	母性看護学特論 母性看護学演習	
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学実習(準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 助産の対象理解と意義, および倫理的対応能力や専門職としての自律について学ぶ。また, 周産期医療の概要や母子保健行政の動向, 諸外国における助産師教育や助産師活動について学ぶ。さらに, 助産師としての社会的責務と規範について学ぶ。			
授業の目的 助産の概念として, 助産の歴史, 法律, 母子保健と助産の変遷, 助産学教育の動向, 諸制度などを学習し, 助産師の役割・責務・活動範囲・助産師の能力と活動について理解を深める。さらに周産期を取り巻く倫理的問題についても学び, 助産師の現状と今後の課題について考察することができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 助産や助産師の定義を説明できる。 2. 助産学の重要な概念, 倫理, 法律, 歴史, 文化が説明できる。 3. 国内外の助産師教育や活動を説明できる。 4. 助産師としての社会的責務と規範が説明できる 5. 我が国のリプロダクティブヘルス・ライツの課題を説明できる。 (以上, DPの「専門知識・理解」に対応)			
成績評価の方法と基準 1. 毎回の課題ミニレポート (20%) 2. 課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (30%) 3. 課題に対する討議内容と参加度 (20%) 4. 最終課題レポート (30%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 助産の概念 (1) 助産の起源・変遷・意義・本質・将来 第2回 助産の概念 (2) リプロダクティブヘルス/ライツ, ジェンダー, 性差医療 第3回 助産師の定義と業務・助産学を支える理論と研究 第4回 助産師と倫理 第5回 母子保健の動向 (母子保健の歴史・母子保健の動向と諸制度) 第6回 我が国と諸外国の助産師教育 第7回 周産期の倫理的問題・助産師としての責務と役割 第8回 助産師の専門性, 課題, これからの展望  【授業および学修の方法】 講義および院生によるプレゼンテーションと討議で展開する。自学自習による準備と学習が必要である  【自己学習のためのアドバイス】 第1回~2回 助産に関連する概念について, 教科書・参考書を調べ, 要点についてまとめる 第3回 助産学に関連する研究について文献検索し, 複数の論文を紹介する 第4回 助産師の役割に関連する倫理的課題について調べて紹介する 第5回 日本および諸外国の母子保健の動向について調べて紹介する 第6回 日本および諸外国における助産師教育の歴史について調べて紹介する 第7回~8回 助産師の専門性と課題について, 文献を用いて紹介する。			
教科書・参考書等 教科書 我部山キヨ子・武谷雄二 編: 助産学講座1基礎助産学 (1) 助産学概論 第5版, 医学書院, 2015年。 参考書 福井トシ子 編: 助産師業務要覧 第3版 (I) 基礎編 2019年版, 日本看護協会出版会, 2019年。			
オフィスアワー 講義終了後, 随時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			

助産師国家試験受験資格に必要な科目であることから、主体的に取り組む

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード： 964002) 助産学特論Ⅱ (リプロダクティブヘルス と権利) Midwifery Ⅱ: Reproductive Health and Rights 助産学特論Ⅱ (リプロダクティブヘルス と権利)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子, 小松 千佳	関連授業科目 助産学特論Ⅰ, Ⅲ～Ⅴ		
	履修推奨科目 母性看護学特論 母性看護学演習		
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 女性のライフサイクルにおけるリプロダクティブヘルスの概念と、女性やその家族の発達と家族機能、および女性のライフサイクルにおける発達課題について学ぶ。また生殖医療における倫理的問題について学び、女性の権利と現代における家族のありかたと健康課題や望ましい支援のあり方について学ぶ。			
<b>授業の目的</b> リプロダクティブヘルス・ライツに関する見解を深める。女性のライフサイクルにおける発達課題と、家族の成長と機能を学ぶ。また、生殖補助医療や不育症とセクシャリティ問題を学び、我が国のリプロダクティブヘルス・ライツの問題と課題を考察することができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. リプロダクティブヘルス・ライツの概念を説明できる。 2. 各ライフサイクルの心理・社会的課題について説明できる 3. 母子・父子関係と家族の機能について説明できる。 4. 生殖の現場における倫理的問題を説明できる。 5. 我が国のリプロダクティブヘルス・ライツの課題を説明できる。 (以上、DPの「知識・理解」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 1. 毎回の課題ミニレポート (20%) 2. 課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (30%) 3. 課題に対する討議内容と参加度 (20%) 4. 最終課題レポート (30%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 第1回 リプロダクティブヘルス・ライツの概念、歴史、意義 第2回 思春期・青年期女性の発達と心理・社会的課題 第3回 成人期・更年期・老年期女性の発達と心理・社会的課題 第4回 母子関係の発達と課題、父子関係、家族と法 第5回 家族の機能と役割、家族の変化、現代における家族の再編 第6回 生殖補助医療・不妊症の社会的・倫理的問題 第7回 セクシュアリティと性的マイノリティ・ジェンダーにかかわる問題 第8回 我が国におけるリプロダクティブヘルス・ライツの課題とその支援			
<b>【授業および学修の方法】</b> 授業は講義中心であるが、内容によっては受講生の理解を深めるためにグループワーク・発表・討議を取り入れる。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1回 リプロダクティブヘルス・ライツについて、基本的知識と歴史をまとめておく 第2回～3回 女性のライフサイクル各期における特徴と課題についてまとめておく 第4回 母子関係理論や母親役割取得課程、父子関係の発達についてまとめておく 第5回 家族機能と役割の基本概念、および現代社会における家族の役割について、文献等を用いてまとめておく 第6回 生殖補助医療の基礎的知識をまとめ、倫理的課題についてまとめる 第7回 性の発達とセクシュアリティについて、基本的内容をまとめておく 第8回 わが国における施策や法律等から、女性をとりまく問題と課題について考える			
<b>教科書・参考書等</b> <b>教科書</b> 我部山キヨ子・武谷雄二 編：助産学講座2基礎助産学 (2) 母子の基礎科学 第5版, 医学書院, 2014年. 我部山キヨ子・菅原ますみ編：助産学講座4基礎助産学 (4) 母子の心理・社会学 第5版, 医学書院, 2016年. <b>参考書</b>			

福井トシ子 編：助産師業務要覧 第3版（Ⅰ）基礎編 2019年版，日本看護協会出版会，2019年。  
鯨岡 峻 著：関係発達論の展開—初期「子ども—養育者」関係の発達的変容，ミネルヴァ書房，1999年。  
柏女霊峰・山縣文治 編：保育・看護・福祉プリマーズ④ 家族援助論，ミネルヴァ書房，2002年。

オフィスアワー 講義終了後，随時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ  
助産師国家試験受験資格に必要な科目であることから，主体的に取り組む

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 964003) 助産学特論Ⅲ (周産期学婦人科学) Midwifery Ⅲ: Obstetrics and Gynecological Nursing 助産学特論Ⅲ (周産期学婦人科学)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 金西 賢治, 塩田 敦子, 花岡 有為 子, 田中 宏和, 星野 克明, 川田 紀美 子	関連授業科目	助産学特論 I - II, IV - V	
	履修推奨科目	助産学特論 I - II, IV - V	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> リプロダクティブヘルスに関連した解剖生理と生理学的変化および免疫, 感染症, 生殖補助医療, 不妊症等について学ぶ。また妊娠・分娩・産褥期の生理病態を理解し, 妊産婦管理の基本を学ぶ。さらに, 周産期の産科手術と精神疾患について学ぶ。			
<b>授業の目的</b> リプロダクティブヘルスに関連した解剖生理と生理学的変化と免疫, 感染症, 生殖補助医療, 不妊症等を学び, 学び, 生殖に関連した問題について考える。また妊娠・分娩・産褥期の解剖生理を理解し, 妊産婦管理の基本を学ぶ。さらに, 周産期の産科手術と精神疾患について学ぶ。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 女性のライフサイクル各期の主な疾患が説明できる。 2. 妊産婦管理に必要な解剖生理を説明できる。 3. 免疫のしくみ, 母子と感染について説明できる。 4. 遺伝と生殖補助医療について説明できる。 5. 周産期の精神疾患を説明できる。 6. 妊娠期の産科手術, 産科的医療処置を説明できる。 (以上、DPの「知識・理解」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 1. 課題レポート (50%) 2. 試験 (50%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
第1回 女性のライフサイクル各期におこるおもな疾患 第2回 性の行動と機能, 生殖のメカニズム, 性周期 第3回 周産期に関連する解剖生理・乳房の生理的变化 第4回 遺伝のしくみと遺伝性疾患, 出生前診断, 遺伝カウンセリング 第5回 不妊症・不育症 第6回 生殖補助医療の最新治療や技術 第7回 女性生殖器疾患 第8回 母子と感染, 性感染症 第9回 免疫のしくみ, 周産期の免疫 第10回 妊娠の生理 妊娠の診断 第11回 分娩の生理 (分娩の定義と種類, 分娩の機序と3要素) 第12回 産褥期の生理 第13回 妊娠期の産科手術・産科的医療処置: 第14回 分娩期の産科手術および産科的医療処置 第15回 周産期の精神疾患  <b>【授業および学習の方法】</b> 授業は講義を中心に進める。看護基礎教育で学んだ内容を整理して臨む。また、毎回の授業内容を教科書等で事後学習し、まとめておく。 <b>【自学実習のためのアドバイス】</b> 第1回 女性のライフサイクル各期の特徴的な疾患についてまとめる 第2回 性周期と生殖メカニズム, 性行動と機能についてまとめる 第3回 周産期の解剖生理について, 既習内容まとめておく。乳房の生理的变化をまとめる 第4回 出生前診断の種類と特徴, 遺伝カウンセリングの動向と課題についてまとめる			

第5回～6回 不妊症・不育症の診断と検査、および生殖補助医療についてまとめる。  
第7回 女性生殖器の疾患についてまとめる  
第8回 母子感染の種類と特徴をまとめる。性感染症の種類と特徴、最近の動向についてまとめる。  
第9回 周産期における免疫のしくみについてまとめる  
第10回～12回 妊娠・分娩・産褥期の生理についてまとめる。分娩の機序についてまとめる  
第13回～14回 妊娠期・分娩期の産科手術・処置の種類についてまとめる  
第15回 周産期における精神疾患の種類と特徴についてまとめる

教科書・参考書等

教科書・参考書等

教科書

我部山キヨ子・武谷雄二 編：助産学講座2基礎助産学（2）母子の基礎科学 第5版，医学書院，2014年。

我部山キヨ子・菅原ますみ 編：助産学講座4基礎助産学（4）母子の心理・社会学 第5版，医学書院，2016年。

我部山キヨ子・武谷雄二 編：助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ（2）分娩期・産褥期 第5版，医学書院，2013年。

オフィスアワー 講義終了後，随時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格の関連科目であることから，主体的な学びを期待する

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 964004) 助産学特論Ⅳ (胎児学・新生児乳幼児学) Midwifery Ⅳ: Neonatal Nursing 助産学特論Ⅳ (胎児学・新生児乳幼児学)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 日下 隆, 三木 崇範, 川田 紀美子	関連授業科目	助産学特論Ⅰ～Ⅴ	
	履修推奨科目	助産学特論Ⅰ～Ⅴ	
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 児と新生児の成長発達と異常, および診断学と治療について学ぶ。また, 胎児と新生児期・乳幼児期の主たる病態について理解し, 正常新生児, 異常新生児の診断における基礎的知識について学ぶ。			
授業の目的 胎児と新生児の成長発達と, 診断について理解することができる。また, 胎児と新生児期・乳幼児期の主たる病態について理解し, 助産診断時に必要な正常新生児, 異常新生児の診断における基礎的知識を身に付けることができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 胎児の発達と生理, 代表的疾患を説明できる。 2. 新生児の発達と生理, 代表的疾患を説明できる。 3. 新生児の異常兆候を説明できる。 (以上, DPの「知識・理解」に対応)			
成績評価の方法と基準 1. 課題レポート (50%) 2. 試験 (50%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 胎児総論, 成長発達 (三木) 第2回 胎児: 循環・肺・中枢神経系の生理と代表的疾患, (三木) 第3回 胎児消化器系・泌尿器・代謝・免疫の生理と代表的疾患 (三木) 第4回 新生児学総論, 発達・発育とその評価 (日下, 安田, 岩瀬, 下野) 第5回 新生児の循環・呼吸, 体温調節・栄養・電解質バランス・血液系の基礎と適応と代表的疾患 (日下, 小谷野, 安田, 岩瀬, 下野) 第6回 新生児の内分泌系・代謝系・免疫系・中枢神経系・行動と感覚機能の基礎と適応と代表的疾患 (日下, 小谷野, 安田, 岩瀬, 下野) 第7回 新生児の異常兆候 (胎児発育異常・チアノーゼ・多血と蒼白・嘔吐と腹部膨満・けいれん) (日下, 小谷野, 安田, 岩瀬, 下野) 第8回 新生児の感染・分娩損傷・黄疸 (日下, 小谷野, 安田, 岩瀬, 下野)			
【授業および学修の方法】 授業は講義中心で進める。看護基礎教育における既習内容について、事前にまとめておく。			
【自学自習のためのアドバイス】 胎児および新生児・乳幼児の成長発達と代表的疾患の特徴等について、準備学習として事前に学習してまとめ講義に臨む。毎回の講義後は、教科書および参考書等で基本的内容と要点をまとめる。			
教科書・参考書等 教科書・参考書等 教科書 我部山キヨ子・武谷雄二 編: 助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ (2) 分娩期・産褥期 第5版, 医学書院, 2013年。 横尾京子 編: 助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ (3) 新生児期・乳幼児期 第5版, 医学書院, 2013年。			
オフィスアワー 講義終了後, 随時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 助産師国家試験受験資格の関連科目であることから, 主体的な学びを期待する			

ナンバリングコード M3NRS-bcaM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード： 964005) 助産学特論V (薬理・臨床検査学) Midwifery V: Pharmacology and Clinical Laboratory	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 bcaM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 金西 賢治, 田中 宏和, 塩田 敦子, 日下 隆, 川田 紀美子, 石上 悦子	関連授業科目	助産学特論 I - IV	
	履修推奨科目	助産学特論 I - IV	
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 周産期で使用される薬剤について、効果や影響等の専門的な知識を学ぶ。ホルモン補充療法や避妊薬の知識と管理について学ぶ。周産期における臨床検査の内容について学ぶ。			
授業の目的 本科目は、周産期で使用される薬剤について、妊娠中の母体胎児および産褥期の母子への薬剤の効果と影響等について、専門的な薬剤知識を学びます。また、女性のライフステージに合わせた特有のホルモン補充療法や避妊薬の知識と管理について、さらに、周産期における母子の健康管理に必要な臨床検査の内容について学びます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 周産期で使用される薬剤について、その薬理作用と機序および禁忌等の注意事項が理解できる 2. ホルモン補充療法について、薬理作用と機序および禁忌等の注意事項が理解できる 3. 避妊薬について、その薬理作用と機序および禁忌等の注意事項が理解できる 4. 周産期管理に必要な臨床検査について理解できる (以上、DPの「知識・理解」に対応)			
成績評価の方法と基準 1. 課題レポート (50%) 2. 試験 (50%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 医薬品総論 第2回 妊娠・分娩・産褥期における薬剤投与の原則, ホルモン補充療法・避妊薬 第3回 妊娠中に用いられる薬剤療法 (異常妊娠・合併症妊娠) 第4回 分娩期に用いられる薬物療法 (陣痛誘発・促進, 異常出血, 産科麻酔) 第5回 新生児期の医薬品・授乳期の医薬品 第6回 精神薬と周産期女性 第7回 周産期の検査: 妊娠診断薬・胎児胎盤機能検査・胎児血採取 第8回 周産期の検査: 胎児心拍数モニタリングの判読, 胎児well-beingの評価			
【授業および学修の方法】 授業は講義中心で進める。看護基礎教育における既習内容について、事前にまとめておく。			
【自学自習のためのアドバイス】 周産期ケアに必要な薬物療法および臨床検査について、準備学習として事前に学習してまとめ講義に臨む。毎回の講義後は、教科書および参考書等で基本的内容と要点をまとめる。			
教科書・参考書等 教科書・参考書等 教科書 我部山キヨ子・武谷雄二 編:助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ (2) 分娩期・産褥期 第5版, 医学書院, 2013年. 横尾京子 編:助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ (3) 新生児期・乳幼児期 第5版, 医学書院, 2013年.			
オフィスアワー 講義終了後, 随時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 助産師国家試験受験資格の関連科目であることから, 主体的な学びを期待する			



ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード： 964101) 助産診断学Ⅰ(妊娠期) Midwifery Diagnostics I: Pregnancy 助産診断学Ⅰ(妊娠期)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子	関連授業科目 助産診断学Ⅱ・Ⅲ 助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
	履修推奨科目 助産学特論Ⅰ～Ⅴ		
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 助産診断学の概念と方法の実際を学ぶ。妊娠期の病態生理・医学的ケアに関する健康支援の展開に必要な基礎知識と妊娠期の助産診断、助産ケアの展開に必要な理論、診断に伴う最新の技術や妊婦の日常生活適応を高める支援に関する理論と実践方法、バースプランを尊重した分娩期のケア技術を学ぶ。			
<b>授業の目的</b> 助産診断の基礎を理解し、ここでは妊娠期について助産診断を立案する。また女性が健康に妊娠期を過ごすための生活環境環境と、栄養、補完代替え療法の理論を理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 助産診断の基礎と、妊娠期の助産診断が説明できる。 2. 助産診断に必要な母子の生活環境が理解できる 3. 周産期各期における栄養について説明できる。 4. 周産期の補完代替え療法の説明ができる。 (以上、DPの「研究能力・応用力」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 1. 毎回の課題ミニレポート (20%) 2. 課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (30%) 3. 課題に対する討議内容と参加度 (20%) 4. 最終課題レポート (30%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 助産診断の基礎 第2回 妊娠期の助産診断の特徴と診断立案 第3回 母子と生活環境物理的要因・化学的要因) 第4回 母子と嗜好品・薬物、母子と運動 第5回 母子と栄養 (1) 栄養に関する基礎知識・妊娠期の栄養 第6回 母子と栄養 (2) 授乳期の栄養、母乳と栄養 第7回 周産期の補完代替え療法 第8回 妊娠期の助産診断：事例検討  <b>【授業および学修の方法】</b> 授業は講義を中心に進める。内容によっては、事前に各自でまとめた内容を発表・討議で進める。 <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1回～2回 助産診断の基本的な内容と、妊娠期の助産診断についてまとめておく 第3回～4回 母子を取巻く生活環境等と、妊娠～分娩への影響についてまとめる 第5回～6回 妊娠期・授乳期の母子の栄養について基本的知識をまとめる 第7回 周産期の補完代替え療法について調べる 第8回 事例に基づき、PBLで討議・発表し、助産診断の実際について深める			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書 我部山キヨ子・武谷雄二 編：助産学講座3基礎助産学 (3) 母子の健康科学 第5版, 医学書院, 2016年. 我部山キヨ子・武谷雄二 編：助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ (1) 妊娠期 第5版, 医学書院, 2013年. 我部山キヨ子：助産師のためのフィジカルイグザミネーション-アセスメント力を磨く, 第2版, 医学書院, 2018年.			
オフィスアワー 講義終了後、随時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 助産師国家試験受験資格に必要な科目であることから、主体的に取り組む			

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 964102) 助産診断学Ⅱ(分娩期) Midwifery DiagnosticsⅡ: Delivery 助産診断学Ⅱ(分娩期)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 金西 賢治, 田中 宏和, 花岡 有為 子, 川田 紀美子, 石上 悦子, 小松 千 佳	関連授業科目 助産診断学Ⅰ・Ⅲ 助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
	履修推奨科目 助産学実習Ⅰ・Ⅱ		
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 分娩の生理・医学的ケアに関する健康支援の展開に必要な基礎知識と分娩期の助産診断, 助産ケアの展開に必要な理論, 診断に伴う最新の技術と健康支援の展開に必要な知識を学ぶ。 (指定規則別表2 助産診断・技術学に対応する科目)			
<b>授業の目的</b> 分娩の生理・医学的ケアの基礎知識と分娩期の助産診断, 助産ケアの理論, 診断に伴う最新の技術とケアを学ぶ。また分娩各期に必要な診断技術とケア技術を修得し, 分娩期の助産診断の作成を理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 分娩期の助産診断が説明できる。 2. 助産診断による産婦と家族のケアが説明できる。 3. 分娩介助の基礎が説明できる。 4. 異常分娩時の管理が説明できる。 (以上、DPの「研究能力・応用力」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 1. 課題に対する資料作成, 討議内容と参加度 (30%) 2. 最終課題レポート (20%) 3. 試験 (50%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 第1回 分娩の進行状態の診断 第2回 分娩に伴う産婦の身体的, 心理社会的変化と健康状態の診断 第3回 助産診断による産婦と家族のケア(分娩第Ⅰ・Ⅱ期) 第4回 助産診断による産婦と家族のケア(分娩第Ⅲ・Ⅳ期) 第5回 分娩介助の意義と原理 第6回 分娩介助時の技術・胎児附属物の検査 第7回 異常分娩の管理 第8回 分娩期の助産診断: 事例検討  <b>【授業および学習の方法】</b> 授業は講義を中心に進める。内容によってはPBLで討議・発表で進める。 <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 分娩期の助産診断を学ぶことから、分娩期に関する既習内容をまとめておく。 第3回～4回、第8回の産婦と家族のケア、分娩期の助産診断については、PBLによる討議・発表で進めることから、講義までに発表できるよう準備する。また講義後は、各自で学びをレポートのまとめる。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書・参考書等 教科書 我部山キヨ子・武谷雄二 編: 助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ(2) 分娩期・産褥期 第5版, 医学書院, 2013年。 平澤美恵子・村上睦子(2016) 写真でわかる助産技術アドバンス. インターメディカ。 参考書 新 純郎 著: 分娩介助学 第2版, 医学書院, 2014年。			
オフィスアワー 講義終了後, 随時 <b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 助産師国家試験受験資格に必要な科目であることから, 主体的に取り組む			

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード： 964103) 助産診断学Ⅲ (産褥期, 新生児・乳幼児) Midwifery Diagnostics Ⅲ: Postpartum and Newborn 助産診断学Ⅲ (産褥期, 新生児・乳幼児)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 谷本 公重, 石上 悦子, 日下 隆, 小松 千佳	関連授業科目 助産診断学Ⅰ・Ⅱ 助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
	履修推奨科目 助産学実習Ⅰ・Ⅱ		
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 産褥期では, 母子の健康診査に必要な知識と技術を習得する. また, 褥婦の身体的, 心理社会的な健康課題を科学的根拠に基づいてアセスメントし, ケアを実践する能力を習得する. 新生児および乳児の健康診査に必要な知識と技術を習得する. 助産過程の展開に必要な新生児および乳児の身体的・心理社会的な健康状態をアセスメントし, 科学的根拠に基づいたケアを実践する援助方法を学ぶ.			
<b>授業の目的</b> 産褥期の基礎的な知識を学び, 助産ケアに必要な知識を理解する. 新生児の対外生活への適応を促すための知識と技術を習得する. 新生児および乳児の身体的・心理社会的な健康状態をアセスメントし, 科学的根拠に基づいたケアを実践する援助方法を学ぶ. またハイリスク新生児の特徴とケア, 親へのケアを学ぶ.			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 褥婦の身体的心理・社会的変化を説明できる. 2. 新生児の診断と管理を説明できる. ケアの技術を習得する. 3. 新生児のケアの技術を説明できる. 4. 乳幼児の成長と管理を学ぶ (以上、DPの「研究能力・応用力」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 1. 課題に対する資料作成, 討議内容と参加度 (30%) 2. 最終課題レポート (20%) 3. 試験 (50%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
第1回 退行性変化のフィジカルアセスメントとケア 第2回 褥婦の心理社会的変化のアセスメントとケア 第3回 家族計画と受胎調節法 第4回 新生児のフィジカルイグザミネーション 新生児の管理・マスキング・聴力検査 第5回 生後24時間以内の早期新生児のケア 第6回 生後24時間以降の早期新生児のケア 第7回 新生児の安全管理・家庭生活への移行とフォローアップ 第8回 乳幼児の発育発達・健康診査・予防接種  <b>【授業および学修の方法】</b> 授業は講義を中心に進める. 内容によっては, PBLによる討議・発表で理解を深める <b>【自学実習のためのアドバイス】</b> 看護基礎教育で学んだ既習内容に沿って, 褥婦と新生児, 早期新生児, 乳幼児のケアについてまとめておく. 新生児と乳幼児の病態生理と検査についてまとめておく.			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書 我部山キヨ子・武谷雄二 編: 助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ (2) 分娩期・産褥期 第5版, 医学書院, 2013年. 横尾京子 編: 助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ (3) 新生児期・乳幼児期 第5版, 医学書院, 2013年. 横尾京子 編: 助産師基礎教育テキスト第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会, 2019年. 我部山キヨ子: 助産師のためのフィジカルイグザミネーション-アセスメント力を磨く, 第2版, 医学書院, 2018年. 木村好秀, 斎藤益子: 家族計画指導の実際, 第2版増補版, 医学書院, 2017年.			

オフィスアワー 講義終了後、随時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格に関連する科目であることから、主体的な学びを期待する

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 964104) 周産期ハイリスクケア Perinatal High-Risk Care 周産期ハイリスクケア	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 金西 賢治, 田中 宏和, 花岡 有為 子, 日下 隆, 川田 紀美子, 石上 悦 子, 小松 千佳	関連授業科目 助産診断学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
	履修推奨科目 助産診断学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 合併症妊婦およびハイリスク妊産褥婦とハイリスク新生児のアセスメントに必要な知識と援助技術を学ぶ。また、母体および新生児の救急蘇生や超音波診断について、科学的根拠に基づく高度な実践的知識を習得する。ハイリスク状況にある妊産褥婦と新生児への援助については、医師および看護職を含めた多職種協働により、早期発見・対応等に貢献できる知識と技術を習得する。			
<b>授業の目的</b> 主に分娩時における母子の急変時の対処とケアをの知識を学ぶ。また周産期での超音波診断や会陰切開と会陰縫合の診断と主義を学び、より高度な助産技術の習得を図る。NICU新生児を含むハイリスク新生児の管理とケアを学ぶ。さらに、子どもをなくした親へのケアを学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 母体急変時のアセスメントと対処方法を説明できる 2. 周産期における超音波検査法の基礎を学ぶ 3. 会陰切開と会陰縫合の技術を学ぶ 4. NICU/ハイリスク新生児の管理とケアを学ぶ 5. ハイリスク・母体急変時のケアを学ぶ (以上、DP「研究能・応用力」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 1. 課題に対する資料作成, 討議内容と参加度 (30%) 2. 最終課題レポート (20%) 3. 試験 (50%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 第1回 母体急変対応(1) 子癇・肺塞栓・出血性ショック・弛緩出血 産科救急時の薬物療法 第2回 母体急変対応(2) 臍帯脱出・胎児心拍異常 第3回 周産期における超音波診断 (基礎的知識と画像診断) 第4回 会陰切開および会陰縫合の適応と手技 第5回 NICU/ハイリスク新生児 出生直後の管理 第6回 NICU/ハイリスク新生児へアと親へのケア 第7回 ペリネイタルロスとケア 第8回 母体急変時のアセスメントとケア  <b>【授業および学修の方法】</b> 授業は講義を中心に進める。第6回～8回については、PBLでケア内容について討議・アセスメントする。 <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1回～3回 既習内容に沿って、母体急変時の対応についてまとめる 第4回 会陰の解剖生理と会陰縫合の適応についてまとめる 第5回 既習内容に沿って、ハイリスク新生児の管理についてまとめる 第6回～8回 ハイリスク新生児と親へのケア、ペリネイタルロスとケア、母体急変時のアセスメントとケアについて、事前に学習した内容をレポートまとめる。ケア内容については、PBLで討議・アセスメントし深める。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書 我部山キヨ子・武谷雄二 編：助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ (2) 分娩期・産褥期 第5版, 医学書院, 2013年. 横尾京子 編：助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ (3) 新生児期・乳幼児期 第5版, 医学書院, 2013年.			

オフィスアワー 講義終了後、随時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格に関連する科目であることから、主体的な学びを期待する

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 964105) 助産診断学演習 I (妊娠期) Midwifery Diagnosis and Skills I: Pregnancy 助産診断学演習 I (妊娠期)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子, 小松 千佳	関連授業科目	助産診断学演習 II・III	
	履修推奨科目	助産診断学 I・II・III	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 妊娠期における母子のセルフケア能力を高める援助方法を学び、保健指導と基本的援助技術を習得する。妊娠期に必要な保健指導や健康教育を対象の時期や背景を考慮して、集団と個人への指導を組み合わせた効果的な方法で企画・実践できるよう知識と能力を養う。			
<b>授業の目的</b> 妊婦のセルフケア能力を高めるため、集団・個別に健康教育を立案できるように、関連した知識を習得する。演習として、妊娠期の集団指導・個別指導と母乳育児指導の指導案を作成し発表を行い、知識と能力を習熟させる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 妊婦の日常生活適応と親準備へのケアを説明できる。 2. 指導の基礎知識を習得する。 3. 周産期各期の指導案を作成し、発表できる。 4. 母乳栄養の指導案を作成し、発表できる。 (以上、DPの「研究能力・応用力」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 1. 事前学習課題に応じた資料作成と発表内容 (30%) 2. 課題に対する討議内容と参加度 (40%) 3. 最終課題レポート (30%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
第1回 妊婦の日常生活適応へのケア 第2回 親になる準備へのケア 第3回 相談・教育活動の技術 相談技術の基礎・個人へのアプローチ・集団へのアプローチ 第4回 周産期の集団指導(1)妊娠前期・妊娠中期・妊娠後期(分娩準備) 第5回 周産期の集団指導(2)入院中の指導・退院前の指導 第6回 周産期の集団指導(3)家族計画・産後1か月の母への指導 第7回 周産期の集団指導(4)母乳栄養の指導 第8回 周産期の個別相談 切迫早産・妊娠高血圧・妊娠性糖尿病・骨盤位 第9回～第12回 妊娠期の保健指導グループワーク 第13回～第15回 妊娠期の保健指導発表			
<b>【授業および学修の方法】</b> 授業は演習を中心に進める。各保健指導内容についてまとめておく <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 妊娠各期の保健指導内容と集団指導内容について、目的、目標、実施方法、内容、評価についてまとめておく。 演習後に各自で保健指導内容のポイントと留意点について、まとめる。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書 堀内成子 編：助産学講座5助産診断・技術学Ⅰ 第5版, 医学書院, 2013年。 我部山キヨ子・武谷雄二 編：助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ(1)妊娠期 第5版, 医学書院, 2013年。 我部山キヨ子・武谷雄二 編：助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ(2)分娩期・産褥期 第5版, 医学書院, 2013年 木村好秀, 斎藤益子：家族計画指導の実際, 第2版増補版, 医学書院, 2017年。			
オフィスアワー 講義終了後、随時			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 助産師国家試験受験資格の関連科目であることから、主体的な学びを期待する			

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg3 授業科目名 (時間割コード: 964106) 助産診断学演習Ⅱ(分娩期・産褥期) Midwifery Diagnosis and SkillsⅡ: Delivery 助産診断学Ⅱ(分娩期)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 3	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子, 小松 千佳	関連授業科目 助産診断学Ⅰ・Ⅲ 助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
	履修推奨科目 助産学実習Ⅰ・Ⅱ		
学習時間 授業90分×22回 + 自学自習 (準備学習45時間 + 事後学習45時間)			
<b>授業の概要</b> 分娩の生理・医学的ケアに関する健康支援の展開に必要な基礎知識と分娩期の助産診断, 助産ケアの展開に必要な理論, 診断に伴う最新の技術と健康支援の展開に必要な知識を学ぶ。 (指定規則別表2 助産診断・技術学に対応する科目)			
<b>授業の目的</b> 分娩の生理・医学的ケアの基礎知識と分娩期の助産診断, 助産ケアの理論, 診断に伴う最新の技術とケアを学ぶ。また分娩各期に必要な診断技術とケア技術を修得し, 分娩期の助産診断の作成を理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 分娩期の助産診断が説明できる。 2. 助産診断による産婦と家族のケアが説明できる。 3. 分娩介助の基礎が説明できる。 4. 異常分娩時の管理が説明できる。 (以上、DPの「研究能力・応用力」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 1. 課題に対する資料作成, 討議内容と参加度 (30%) 2. 最終課題レポート (20%) 3. 試験 (50%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 第1回 分娩の進行状態の診断 (田中) 第2回 分娩に伴う産婦の身体的, 心理社会的変化と健康状態の診断 第3回 助産診断による産婦と家族のケア(分娩第Ⅰ・Ⅱ期) 第4回 助産診断による産婦と家族のケア(分娩第Ⅲ・Ⅳ期) 第5回 分娩介助の意義と原理 第6回 分娩介助時の技術・胎児附属物の検査 第7回 異常分娩の管理 (花岡) 第8回 分娩期の助産診断: 事例検討 第9回～第16回 分娩介助時技術演習 第17回～第19回 分娩介助時技術試験 第20回～第22回 分娩見学(附属病院 西2階病棟)			
<b>【授業および学習の方法】</b> 授業は講義を中心に進める。内容によってはPBLで討議・発表で進める。 <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 分娩期の助産診断を学ぶことから、分娩期に関する既習内容をまとめておく。 産婦と家族のケア、分娩期の助産診断については、PBLによる討議・発表で進めることから、講義までに発表できるよう準備する。また講義後は、各自で学びをレポートのまとめる。			
教科書・参考書等 教科書・参考書等 教科書 我部山キヨ子・武谷雄二 編:助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ(2)分娩期・産褥期 第5版, 医学書院, 2013年。 平澤美恵子・村上睦子(2016)写真でわかる助産技術アドバンス.インターメディカ。 参考書 新 純郎 著:分娩介助学 第2版, 医学書院, 2014年。			
オフィスアワー 講義終了後, 随時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			



助産師国家試験受験資格に必要な科目であることから、主体的に取り組む

ナンバリングコード M3NRS-bcaM-40-Eg1 授業科目名 (時間割コード： 964107) 助産診断学演習Ⅲ (新生児・乳幼児) Midwifery Diagnosis and Skills Ⅲ： Postpartum and Newborn 助産診断学演習Ⅲ (新生児・乳幼児)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 bcaM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Eg	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子, 谷本 公 重, 小松 千佳	関連授業科目	助産学特論Ⅳ 助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ	
	履修推奨科目	助産診断学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 新生児のケアに必要な助産の知識と技術を学び、臨床助産実践力の基礎的能力を養う。また、産後の褥婦が新生児のケアをできるよう支援し、褥婦に伝えるための保健指導に必要な知識と基本技術を学ぶ。さらに、出生直後の新生児の救急蘇生法の基礎を学び、助産実践能力を高める。			
授業の目的 出生直後の新生児を子宮外生活への適応させる援助方法の知識と技術を学ぶ。また、褥婦が新生児のケア能力を高める援助方法と保健指導を実践するために必要な知識と基本技術を習得する。さらに、出生直後の新生児の救急蘇生法の基礎を学ぶ			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 子宮外生活への適応支援を習得する。 2. 新生児期に必要な基本的育児技術を習得する。 3. 新生児の育児技術を説明できる。 4. 新生児蘇生法がわかる (以上、「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法と基準 1. 事前学習課題に応じた資料作成と発表内容 (30%) 2. 課題に対する討議内容と参加度 (40%) 3. 最終課題レポート (30%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 新生児のフィジカルアセスメント 第2回 子宮外生活への適応支援(1)出生直後のケア 第3回 子宮外生活への適応支援(2)出生後24時間以内のケア 第4回 出生後24時間以降の早期新生児ケア (1)呼吸・循環・体温、睡眠-覚醒リズム、栄養 第5回 出生後24時間以降の早期新生児ケア (2)皮膚の清潔、黄疸、退院に向けての準備 第6回 新生児の育児指導： (1)入院中の指導 (2)退院時の指導 (3)一か月健診での指導 第7回 新生児の蘇生 (NCPR) (1)基礎知識 第8回 新生児の蘇生 (NCPR) (2)アルゴリズムと蘇生技術			
【授業および学修の方法】 シミュレーションおよび視聴覚教材を用いた演習を中心に進める。既習内容について事前にまとめておく。 【自学実習のためのアドバイス】 新生児の子宮外生活への適応支援に向けて、出生直後と出生24時間以内、出生後24時間以降の新生児の基本的ケア技術をまとめておく 新生児の蘇生 (NCPR) の基礎知識をまとめておく。講義終了後は、基本的技術についてセルフラーニングで学修する			
教科書・参考書等 教科書 横尾京子 編：助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ (3) 新生児期・乳幼児期 第5版, 医学書院, 2013年. 遠藤俊子編：助産師基礎教育テキスト7ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会, 2019年 細野茂春 (監)：日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト第3版, メジカルビュー社, 2016年.			
オフィスアワー 講義終了後、随時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 助産師国家試験受験資格の関連科目であることから、主体的な学びを期待する			

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-LE2 授業科目名 (時間割コード： 964201) 地域母子保健学特論 Maternal and Child Health in Community 地域母子保健学特論	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 LE	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子, 川田 紀美 子, 石上 悦子, 小松 千佳	関連授業科目	地域母子保健学実習	
	履修推奨科目	地域母子保健学実習	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 地域の母子保健行政の実際から, 母子や家族を取り巻く環境における健康問題や課題への取り組み状況と, 保健師の果たす役割について学ぶ. また, 様々な問題を抱えた母子や地域の特性に応じた母子支援の実際を学ぶ.			
授業の目的 母子保健行政の仕組み, 制度・施策, 社会資源, 関係機関・関連職種との連携を理解して, 地域社会での助産師の役割と活動を探求する.			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 母子保健活動の意義と実際について理解する 2. わが国における母子保健行政の仕組みや制度を説明できる. 3. 国際母子保健の現状と課題について理解する 4. 災害時の地域母子保健活動の在り方について理解する (以上、DPの「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法と基準 1. 毎回の課題ミニレポート (20%) 2. 課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (30%) 3. 課題に対する討議内容と参加度 (20%) 4. 最終課題レポート (30%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 母子保健の現状と動向 第2回 母子保健行政・地域母子保健活動の意義 第3回 母子保健制度と関係法規 第4回 地域母子保健活動の展開1 ーハイリスク妊婦, 褥婦訪問指導の理論と実際ー 第5回 地域母子保健活動の展開2 ー新生児訪問指導理論と実際ー 第6回 子どもと家族の心理的アセスメント 第7回 災害時の地域母子保健活動ー災害時のメンタルヘルス 第8回 国際母子保健活動 特別セミナー「海外における遠隔モバイル装置を用いた妊婦管理」 第9回～第15回 地域母子保健活動の実際 (演習)			
【授業および学修の方法】 授業は講義を中心に進める。内容によって、PBLにより討議・発表により理解を深めるミニレポート、指導媒体を作る 【自学自習のためのアドバイス】 地域における母子保健活動の役割と母子保健施策について、既習内容からまとめておく。講義後は、地域母子保健における助産師の役割について課題レポートする			
教科書・参考書等 教科書 我部山キヨ子・武谷雄二：助産学講座9地域母子保健・国際母子保健 第5版, 医学書院, 2016年.  参考書 福井トシ子編：助産師業務要覧 第3版 2018年版 (I) 基礎編, 日本看護協会出版会, 2017年. 福井トシ子編：助産師業務要覧 第3版 2018年版 (II) 実践編, 日本看護協会出版会, 2017年. 福井トシ子編：助産師業務要覧 第3版 2018年版 (III) アドバンス編, 日本看護協会出版会, 2017年.			
オフィスアワー 講義終了後 随時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			

助産師国家試験受験資格の関連科目であることから、主体的な学びを期待する

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード： 964301) 助産業務管理学特論 Midwifery Management 助産業務管理学特論	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子, 小松 千佳	関連授業科目	医療福祉経営論 助産学実習Ⅲ (病棟管理)	
	履修推奨科目	医療福祉経営論 助産学実習Ⅲ (病棟管理)	
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> マネジメントの概念と病院や施設における助産管理と助産業務範囲について学び、助産業務管理の基礎的能力と助産所の管理運営について学ぶ。 病院や施設における医療事故や災害等の実際から、病院と地域の連携、および多職種協働による支援システムにおける助産師の責務と役割、および支援の在り方を検討する。			
<b>授業の目的</b> 助産業務管理の基礎的知識と原理・方法について学び、母子の安全と快適な助産ケアを提供するための助産業務管理における課題と課題解決方法について理解する			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 助産業務管理の基礎的知識と原理および方法について学ぶ 2. 助産師の法的責任と関係法規を学び、専門職としての役割を理解する 3. 産科病棟と外来、および院内助産における管理の実際について学ぶ 4. 災害時の助産管理について学ぶ (以上、DPの「倫理観・社会的責任」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 1. 毎回の課題ミニレポート (20%) 2. 課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (30%) 3. 課題に対する討議内容と参加度 (20%) 4. 最終課題レポート (30%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
第1回 管理の基本概念・助産管理の概念 第2回 病衣における助産業務管理の実際 第3回 関係法規と助産師の義務および法的責任 第4回 周産期におけるリスクマネジメント 第6回 外来・助産師外来における助産管理 第7回 助産所における助産業務管理・助産所の運営 第8回 災害時の助産管理  <b>【授業および学修の方法】</b> 授業は講義を中心に進める。内容によって、PBLによる討論・発表により理解を深める  <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 準備学習として、助産業務管理の基本概念についてまとめる。関係法規の中で助産に関連する内容について調べておく。 事後学習として、助産管理の実際について、産科病棟、外来、助産院による特徴と課題についてまとめる。			
<b>教科書・参考書等</b> <b>教科書</b> 我部山キヨ子・毛利多恵子：助産学講座10 助産管理 第5版, 医学書院, 2016年. 成田 伸：助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全 日本看護協会主出版会, 2018年. <b>参考書</b> 福井トシ子編：助産師業務要覧 第3版 2018年版 (Ⅰ) 基礎編, 日本看護協会出版会, 2017年. 福井トシ子編：助産師業務要覧 第3版 2018年版 (Ⅱ) 実践編, 日本看護協会出版会, 2017年. 福井トシ子編：助産師業務要覧 第3版 2018年版 (Ⅲ) アドバンス編, 日本看護協会出版会, 2017年			
<b>オフィスアワー</b> 講義終了後、随時			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 助産師国家試験受験資格の関連科目であることから、主体的な学びを期待する			

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード： 964302) 医療福祉経営論 Medical Welfare and Management 医療福祉経営論	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 芳我 ちより, 川田 紀美子, 谷本 公重, 辻 京子, 石上 悦子, 小松 千佳	関連授業科目 助産学実習Ⅲ (管理)	助産業務管理学特論 地域母子保健学実習	地域母子保健学特論
	履修推奨科目 助産学実習Ⅲ (管理)	助産業務管理学特論 地域母子保健学実習	地域母子保健学特論
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 医療福祉の概念と疾病をもつ妊産婦や母子・父子家庭, 障がい児をもつ妊産婦に必要な医療や保障制度について学ぶ。また, 病院や施設の基本的医療経営学を学び, 安全な分娩と助産の質的担保を図るための具体的な方法について学ぶ。			
授業の目的 医療福祉の概念とともに, 疾病をもつ妊産婦や母子・父子家庭, 障がい児をもつ妊産婦を取り巻く日本の現状を把握し, 必要な医療や保障制度について理解を深める。また, 医療経済のしくみと医療法について学び, 医療施設において, 安全な分娩と助産の質的担保をめざした助産師による経営管理について考える。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 医療福祉の概念について理解する。 2. 妊産婦を取り巻く様々な日本の現状について説明できる。 3. 医療経済のしくみと医療法について理解する。 4. 医療保障制度について説明できる。 (以上, DPの「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法と基準 1. 毎回の課題ミニレポート (20%) 2. 課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (30%) 3. 課題に対する討議内容と参加度 (20%) 4. 最終課題レポート (30%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 社会福祉・医療福祉の理念と現状 第2回 社会福祉制度—社会保険制度 (医療保険) と社会保障制度 第3回 医療政策行政経営—医療計画, 政策形成 第4回 医療施設における経営管理の実際 第5回 保健医療福祉行政と財政—高松市における保険医療福祉行政の現状と取組 第6回 疾病をもつ妊産婦, 母子・父子家庭, 障がい児をもつ妊産婦の現状と課題 第7回 疾病をもつ妊産婦, 母子・父子家庭, 障がい児をもつ妊産婦の現状と課題—事例 第8回 まとめ  【授業および学修の方法】 授業は講義を中心に進めていく。内容に応じて, PBLによる討議・発表で理解を深める 【自学自習のためのアドバイス】 事前学習として, 日本における医療福祉と医療経済のしくみについてまとめる 事後学習として, 文献や新聞記事等を用いて, 現代の医療福祉経営における課題と取組に状況について, 助産師の役割も含めてまとめる。			
教科書・参考書等 教科書 我部山キヨ子・毛利多恵子: 助産学講座10 助産管理 第5版, 医学書院, 2016年. 参考書 川渕孝一: “見える化” 医療経済学入門, 医歯薬出版, 2014年.			
オフィスアワー 講義終了後, 随時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 助産師国家試験受験資格の関連科目であることから, 主体的な学びを期待する			

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Px1 授業科目名 (時間割コード: 964401) 助産学実習 I Midwifery Clinical Practicum I 助産学実習 I	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Px	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子, 小松 千佳	関連授業科目 助産学実習 I・III 地域母子保健学実習 助産診断学演習 II 助産診断学演習 I～III		
	履修推奨科目 助産学実習 I・III 地域母子保健学実習 助産診断学演習 II 助産診断学演習 I～III		
学習時間 実習45時間 × 1週 + 自学自習 (準備学習30時間 +事後学習30時間)			
授業の概要 周産期にある母子とその家族を対象に、エビデンスに基づく知識と、助産過程の展開を通して助産ケアや健康教育の実際を学ぶ。正常経過の分娩介助の基礎となる分娩見学を行い、実践を通して正常からの逸脱の診断、逸脱予防のケアを理解する。産後の母子や外来妊婦の受け持ちを通して、周産期における正常妊産褥婦・新生児の変化とケアの基礎を理解する。さらに助産師としての基本姿勢や態度を養う。			
授業の目的 既習の理論および技術を実践場面で統合する。安全で安楽な助産介助が実践できるよう、基礎的能力を学ぶ。産後の母子を受け持ち、進行性変化・退行性変化へのケアと子宮外生活適応のケアを理解する。健康診査と助産師の行う指導について学び、助産師の指導の実際を理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 正常産婦の分娩介助が理解できる。 2. 正常産婦の助産診断が理解できる。 3. 正常褥婦のケアが実践できる。 4. 正常新生児の子宮外適応のケアが説明できる。 5. 妊婦の健康診査の流れが説明できる。 6. 継続事例妊婦を受け持ち、助産診断に取り組むことができる。 (以上、DPの「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法と基準 1. 事前学習課題の作成 (15%) 2. 実習への参加度 (50%) 3. 課題に応じた資料作成と発表、および討議内容 (15%) 4. 実習記録内容 (20%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1. オリエンテーション 実習方法、学習計画、注意事項等  2. 具体的実習内容 1) 分娩見学 1例以上の分娩を、直接介助助産師とともに分娩第1期から第4期まで産婦へのケアを実践する 2) 褥婦の受け持ち 褥婦を受け持ち、ケア計画の立案・展開・評価を実施する。分娩見学事例が望ましい。 3) 新生児の受け持ち 新生児を1日受け持ち、ケア計画の立案・展開・評価を実施する。 4) 妊婦健康診査見学 受診妊婦1例を受け持ち、受付から外来終了までの診察の流れとケアについて学ぶ。 5) 健康教育見学 産後の集団指導(育児指導・産褥指導・沐浴指導)を学ぶ。 6) 継続事例の決定 継続事例として、妊娠18週前後の妊婦1例を決定する。初産婦が望ましい。  3. カンファレンス  実習終了前にグループカンファレンスを実施し、目標の達成度合いと自己の課題を見出す。  【授業および学修の方法】 隣接する医学部附属病院の周産期学女性診療科病棟、および助産師婦外来等で実習する。			

**【自学自習のためのアドバイス】**

実習前に、妊婦、産婦、褥婦と新生児の看護について、既習内容からまとめておく。また、それぞれの対象へのケア計画の立案方法についてまとめておく。継続事例については、長期間にわたり関わることになることを留意しておく。

実習終了後は、それぞれの受持ち事例について実習記録にまとめ、ケア計画と実施内容について振り返る。

**教科書・参考書等**

**教科書**

堀内成子 編：助産学講座5助産診断・技術学Ⅰ 第5版，医学書院，2013年。

我部山キヨ子・武谷雄二 編：助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ（1）妊娠期 第5版，医学書院，2013年。

我部山キヨ子・武谷雄二 編：助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ（2）分娩期・産褥期 第5版，医学書院，2013年。

横尾京子 編：助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ（3）新生児期・乳幼児期 第5版，医学書院，2013年。

**オフィスアワー 実習終了後，随時**

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

助産師国家試験受験資格の関連科目であることから，主体的な学びを期待する



ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Px8 授業科目名 (時間割コード： 964402) 助産学実習Ⅱ Midwifery Clinical PracticumⅡ 助産学実習Ⅱ	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Px	単位数 8	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子, 小松 千佳	関連授業科目 助産学実習Ⅰ・Ⅲ 地域母子保健学実習 助産診断学演習Ⅱ 助産診断学演習Ⅰ～Ⅲ		
	履修推奨科目 助産学実習Ⅰ・Ⅲ 地域母子保健学実習 助産診断学演習Ⅱ 助産診断学演習Ⅰ～Ⅲ		
学習時間 実習45時間 × 8週 + 自学自習 (準備学習120時間 + 事後学習120時間)			
<b>授業の概要</b> 周産期にある母子とその家族を対象に、エビデンスに基づく知識を応用し、助産過程の展開を通して助産ケアや健康教育を実践展開する。正常経過の分娩介助10例以上の実践や、母子の受け持ち事例を通して助産診断の能力を深める。施設だけにとどまらず、助産院にも出向き、助産師としての視野を広くし、「よいお産」について考察し、自らの助産師としての姿勢と課題を明確にする。			
<b>授業の目的</b> 既習の理論および技術を実践場面で統合する。助産診断を基礎とした助産師ケアを実践し、安全で安楽な助産介助が実践できるよう、基礎的能力を養う。産後の母子を受け持ち、進行性変化・退行性変化へのケアと子宮外生活適応のケアが実践できる。集団指導・個別指導を通じて、健康教育の技術を習得し、助産師の指導の実際を学ぶ。継続事例を通じ、妊娠期から一か月健診までの一貫した周産期の変化とケアを理解する。さらに、助産所での妊産褥婦へのケアや、助産師の地域での活動について学びを深め、自らの課題を明確にする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 助産診断を基に正常産婦の分娩介助を習得できる。 2. 助産診断を基に正常褥婦のケアを習得できる。 3. 助産診断を基にした正常新生児のケアが習得できる。 4. 助産診断を基にした個別指導を習得できる。 5. 集団指導をグループで実践できる。 6. 妊娠中から1か月健診までの継続的ケアを実践できる。 7. 助産外来のケアを理解できる。 (以上、DPの「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 総括的評価 1. 事前学習課題の作成 (10%) 2. 実習参加における自主的積極的態度 (30%) 3. 課題に応じた資料作成と発表、および討議内容 (10%) 4. 分娩介助実技と産婦ケア (30%) 5. 実習記録 (20%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 1 オリエンテーション 実習方法、学習計画、注意事項等  2 具体的実習内容  A：病棟実習 1) 分娩介助 産婦の分娩介助を行う。産婦1例につき学生2名が関わり、実習指導者の指導・援助のもと、直接介助と間接介助に分かれて実施する。分娩の直接介助は10例程度とする。 2) 母子の受け持ち 直接介助を行った母子3例程度を退院まで受け持ち、ケア計画の立案・展開・評価を実施する 3) 集団指導 実習施設で行われる母親学級運営に企画の段階から参加し、グループで集団指導を実施する。 4) 周産期女性診療科外来 ①妊婦健診・2週間健診・一か月健診 正常だけでなくハイリスク妊婦・褥婦の診療にも付き添い、健康診査とアセスメントを行う。 ②助産師外来 助産師外来における妊婦健診を実習指導者と共に実施できる。			

- 5) ハイリスク妊産褥婦  
MFICUにて身体的心理的ハイリスク妊婦の管理について学ぶ。  
ハイリスク分娩に立ち合い、助産手技とハイリスクの管理方法を学ぶ
- 6) カンファレンス

**B : 助産院実習**

- 1) 継続事例実習  
妊婦健診時から受け持つ継続事例を、入院から出産・退院まで受け持ち、褥婦・新生児のケアの立案・展開、個別指導を行い、継続ケアのアセスメントを実践する。  
継続事例の退院後は、家庭訪問実施と、2週間健診、1か月健診に付き添い、家庭生活への移行のアセスメントと個別指導を行う。
- 2) 個別指導  
継続事例および受け持ち患者の助産診断を基に指導案を立案し、実施する。  
例：生活指導・沐浴指導・食生活指導・授乳指導・育児指導・家族計画指導
- 3) 助産所の助産師ケア  
助産所の妊産褥婦ケアについて指導者とともに実践し、フリースタイルをはじめとする助産所の助産師ケアを理解する。  
助産所の様々な助産活動に参画し、地域での助産師の役割を理解する。
- 4) カンファレンス

**【授業および学修の方法】**

隣接する医学部附属病院、および地域の助産院で実習する。  
分娩介助とその後の母子の受持ちは、昼間の時間帯のみならず、夜間の実習も予測して臨む

**【自学実習のためのアドバイス】**

分娩介助の手順等については、実習前に繰り返しシュミレーションしておく。  
また、介助後は、指導助産師や教員と振り返りカンファレンスを行い、目標の達成状況を自己評価する。  
実習終了前にグループカンファレンスを実施し、目標の達成度合いと自己の課題を見出す。

**教科書・参考書等**

**教科書**

堀内成子 編：助産学講座5助産診断・技術学Ⅰ 第5版，医学書院，2013年。  
我部山キヨ子・武谷雄二 編：助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ（1）妊娠期 第5版，医学書院，2013年。  
我部山キヨ子・武谷雄二 編：助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ（2）分娩期・産褥期 第5版，医学書院，2013年。  
横尾京子 編：助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ（3）新生児期・乳幼児期 第5版，医学書院，2013年。  
平澤美恵子・村上睦子（2016）写真でわかる助産技術アドバンス. インターメディカ。

オフィスアワー 実習終了後、随時

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

本科目は、分娩介助1例毎に以下について自己評価と臨床指導者及び教員評価を行う。

1. 分娩介助技術および産婦ケアに関して、臨床指導者及び教員評価から自己の援助を振り返ることができる
2. 反省点を次の分娩介助に反映することができる
3. 自己の援助技術を向上させようと自主的・積極的に学ぶ姿勢を維持する

自己の振り返りが不十分である場合は、分娩介助を中止し、単位認定できない場合がある  
分娩介助10例程度を満たさない場合は延長実習を行う

助産師国家試験受験資格の関連科目であることから、主体的な学びを期待する

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Px1 授業科目名 (時間割コード： 964403) 助産学実習Ⅲ (助産管理) Midwifery Clinical Practicum Ⅲ 助産学実習Ⅲ	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Px	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子, 小松 千佳	関連授業科目	助産学実習Ⅰ～Ⅱ 地域母子保健学実習	
	履修推奨科目	助産業務管理学特論, 医療福祉経営論	
学習時間 実習45時間 × 1週 + 自学自習 (準備学習15時間 事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 病院および施設における助産管理の実際を学ぶ。また、施設の安全管理や地域との連携、施設の特徴に合わせた人材確保や経営の在り方について学ぶ。総合的視点から、安全な分娩環境を提供するための、助産師の役割を学ぶ。学生は、自ら担当者に連絡を取り、現地に出向き、必要な情報を収集し、記録としてまとめる。			
<b>授業の目的</b> 病産院と助産所における助産業務管理の実際を理解し、助産師の役割と責務を考察する。さらに病産院における安全管理対策や地域との連携についても学びを深め、助産師の職域と責務について検討する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 病産院での助産管理を説明できる。 2. 助産院での助産管理を説明できる。 3. 周産期における安全管理について説明できる。 4. 周産期における地域連携について説明できる。 (以上, DPの「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 1. 事前学習課題の作成 (15%) 2. 実習への参加度 (50%) 3. 課題に応じた資料作成と発表, および討議内容 (15%) 4. 実習記録内容 (20%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 1 オリエンテーション 実習方法, 学習計画, 注意事項等 2 具体的実習内容 1) 病産院における助産管理 産科病棟の管理, 医療事故とリスクマネジメント, 院内助産院内助産院の管理を自主的に学ぶ。 2) 助産院における助産管理と施設管理 助産院の管理と運営, 助産所の経営, 助産所に関する法律について自主的に学ぶ。 3) 病産院の安全管理 安全管理部の医療安全管理者やリスクマネージャから医療事故マネジメントについて自主的に学ぶ。 4) 病産院における地域連携 総合地域医療連携センターにて周産期における地域連携を学ぶ。 3 カンファレンス  実習終了前にグループカンファレンスを実施し, 目標の達成度合いと自己の課題を見出す。			
<b>【授業および学修の方法】</b> 授業は, 講義を中心に進める。内容によって, PBLによる討論・発表により深めておく。 <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 事前準備は, 病産院および助産所の特徴と役割についてまとめておく。 また周産期における地域連携のあり方についてまとめておく。 事後学習は, 学修した内容をレポートにまとめ, 自己の課題を明らかにする。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書 我部山キヨ子・毛利多恵子 編: 助産学講座10助産管理 第5版, 医学書院, 2016年。			
オフィスアワー 実習終了後, 随時 <b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 助産師国家試験受験資格の関連科目であることから, 主体的な学びを期待する			

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Pf1 授業科目名 (時間割コード： 964404) 地域母子保健学実習 Maternal and Child Health Practicum 地域母子保健学実習	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Pf	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子, 小松 千佳	関連授業科目	助産学実習 I～III	
	履修推奨科目	地域母子保健学特論	
学習時間 実習45時間 × 1週 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 地域における母子保健行政と母子および家族を取り巻く健康問題への取り組みの実際について、母子の地域包括ケアの視点から総合的にとらえ、地域における助産師の役割と多職種連携について学ぶ。実習施設は高松市保健センターとする。学生は自主的に実習目標を決定し、保健センターに従事する保健師・助産師と一緒に行事参加しながら学びを深める。			
<b>授業の目的</b> 高松市保健センターで行われている母子保健事業に参加し、それぞれの事業の活動目的や法的根拠について学びを深める。個人・集団に対する健康相談・保健指導などに参加・見学し、指導技術の学びを深める。また保健師の業務内容と保健センターの機能と役割について理解し、地域連携の実際について考察する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 母子保健事業に参加し、事業の活動目的や法的根拠を説明できる。 2. 母子保健事業以外の事業に参加し、事業の活動目的や法的根拠を説明できる。 3. 集団・個別指導と健康相談の事業に参加する。 4. 保健師の業務内容と保健センターの機能と役割が説明できる。 5. 地域包括ケアシステムについて理解できる。 (以上、DPの「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> *本科目は、助産学実習 I・II・III履修者のみ履修できる 1. 事前学習課題の作成 (15%) 2. 実習への参加度 (50%) 3. 課題に応じた資料作成と発表、および討議内容 (15%) 4. 実習記録内容 (20%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 1 オリエンテーション 実習方法, 学習計画, 注意事項等 2 具体的実習内容 1) 各種実施されている母子保健事業について、積極的に参加する。 妊娠期：妊娠届・母子健康手帳交付, 妊婦訪問指導, パパママ教室, 多胎児教室 出産後：こにちは赤ちゃん事業, 未熟児訪問指導, 産後ケア事業 0-1歳児：4か月児相談・乳児相談・離乳食教室・多胎児教室 1歳以後：1歳6か月児健康診査・乳児歯科健康診査, 3歳児健康診査 幼児の専門的な相談：ことばの遅れ・精神面の発達・保護者の不安 親子の健康相談 2) 母子保健事業以外の事業に積極的に参加する。 乳幼児の予防接種事業・乳がんの集団検診事業, 等 3) 保健師の業務と保健センターの役割と機能, および地域連携と地域包括ケアシステムについて学ぶ 3 カンファレンス  実習終了前にグループカンファレンスを実施し、目標の達成度合いと自己の課題を見出す。			
<b>【授業および学修の方法】</b> 地域の母子保健センターにおいて実習し、母子保健事業および集団指導・個別指導への主体的な参加で進める。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 事前学習として、地域で実施されている母子保健事業および集団指導・個別指導のの概要についてまとめておく 事後学習は、実習した内容から、自己の課題を明らかにしてレポートにまとめる			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書 我部山キヨ子・毛利多恵子 編：助産学講座10助産管理 第5版, 医学書院, 2016年。			

オフィスアワー 実習終了後、随時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格の関連科目であることから、体的な学びを期待する

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 965001) 特別研究 Master's Thesis Master's Thesis	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M4NRS	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 10	
担当教員名 谷本 公重, 藤井 豊, 前川 泰子, 市原 多香子, 清水 裕子, 山本 美輪, 渡邊 久美, 芳我 ちより, 松本 啓子, 川田 紀美子	関連授業科目	各領域特論・演習	
	履修推奨科目	看護研究方法論1、看護研究方法論2、看護倫理学	
学習時間 授業90分×75回 + 自学自習 (準備学習150時間+事後学習150時間)			
<b>授業の概要</b> 各自の研究テーマを倫理的課題を考慮の上、探究し、研究を企画・実施し、修士論文を完成することをねらいとしています。 修士論文の作成にあたっては、国内外の知見を総覧し、研究課題を明確にできる能力や研究目的を追求できる合理的な判断力と実践力、データ分析に関わる質的・量的技法の修得を促していきます。また、研究成果を科学的に根拠づけ、科学の発展に寄与できる論文の完成をめざします。			
<b>授業の目的</b> 研究計画書に基づき研究方法論を決定するとともに、用いる方法論の実際を修得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 研究テーマや研究目的を決定し、自己の研究計画について説明することができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 2. 文献検討後、レビューとして記述することができる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 3. データの収集方法、分析方法の妥当性について説明することができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)。 4. 倫理的配慮について記述することができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。 5. 科学的論文のあり方を説明することができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 6. 自己の研究課題を論文としてまとめ、修士論文発表会において発表することができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> *本科目は、助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ履修者のみ履修できる			
研究過程での学習内容 (20%)、修士論文 (60%) および発表内容 (20%) で評価する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 【授業計画】 第1回 研究計画の再検討：一貫性の検討 第2回 研究計画の再検討：研究方法の再検討 第3回 研究計画の再検討：倫理的課題の再検討 第4回 研究計画の再検討：追加文献レビュー 第5回 データ収集：対象者へのアプローチ 第6回 データ収集：インフォームドコンセント・アセント 第7回 データ収集：自己の研究方法に応じて初回データ収集 第8回 データ収集：引き続き、初回データ収集を行う 第9回 初回データの入力 第10回 初回データの入力内容のチェック 第11回 初回データの修正 第12回 初回データの検討 第13回 初回データに基づき、データ収集方法の検討 第14回 リサーチミーティング：データ収集方法の提示 第15回 リサーチミーティング：データ収集の修正 第16回 データ収集：見直したデータ収集方法による 第17回 データ収集：適宜指導を受けながらデータ収集を行う 第18回 データ収集：データの入力を行いながらデータ収集を行う 第19回 データ収集：データの整理を行いながらデータ収集を行う 第20回 データ整理：自己の研究方法に応じてデータの整理を行う 第21回 データ整理：客観的資料となるようデータを整理する 第22回 データ整理：入力内容の確認 第23回 データ整理：入力内容に関して、指導を受ける 第24回 リサーチミーティング：基本データの確認			

- 第25回 リサーチミーティング：データ整理方法の修正
- 第26回 データ分析：自己の研究方法に応じてデータ分析
- 第27回 データ分析：分析のプロセスを残す
- 第28回 データ分析：データの質の評価－信頼性
- 第29回 データ分析：データの質の評価－妥当性
- 第30回 データ分析：データの質の評価－信用性
- 第31回 データ分析：データの質の評価－明解性
- 第32回 データ分析：データの質の評価－確認可能性
- 第33回 データ分析：データの質の評価－転用可能性
- 第34回 リサーチミーティング：分析結果の提示
- 第35回 リサーチミーティング：分析結果の検討
- 第36回 データ分析：ミーティングに基づき適宜修正
- 第37回 結果の要約：結果として記述
- 第38回 結果の要約：研究方法に応じた図表作成
- 第39回 結果の要約：研究方法に応じた結果の記述
- 第40回 結果の要約：客観的・具体的記述
- 第41回 結果の要約：論理的記述
- 第42回 リサーチミーティング：結果の説明
- 第43回 リサーチミーティング：結果の検討
- 第44回 結果の要約：ミーティング結果に基づく修正
- 第45回 結果の要約：結果完成
- 第46回 考察：明らかになったことの確認
- 第47回 考察：結果の解釈
- 第48回 考察：結果は何を意味しているのか
- 第49回 考察：自己の主張を客観的に証明
- 第50回 考察：既存の知識との比較
- 第51回 考察：解釈の妥当性の記述
- 第52回 考察：研究目的達成のために研究方法は適切であったか
- 第53回 考察：看護への示唆
- 第54回 考察：研究の限界
- 第55回 考察：今後の研究課題
- 第56回 リサーチミーティング：考察の説明
- 第57回 リサーチミーティング：考察の検討
- 第58回 考察：ミーティング結果に基づく修正
- 第59回 考察：考察の完成
- 第60回 論文作成：作成要領の確認
- 第61回 論文作成：IMRAD
- 第62回 論文作成：序論（研究問題）
- 第63回 論文作成：序論（研究問題の重要性）
- 第64回 論文作成：序論（研究設問や研究仮説など）
- 第65回 論文作成：文献レビュー
- 第66回 論文作成：目的
- 第67回 論文作成：方法（研究デザイン、対象と設定）
- 第68回 論文作成：方法（データ収集用具、手法、データ分析）
- 第69回 論文作成：結果
- 第68回 論文作成：考察
- 第69回 論文作成：研究の限界
- 第70回 論文作成：引用文献リスト確認
- 第71回 論文作成：結論
- 第72回 論文作成：タイトル、キーワード
- 第73回 論文作成：要旨
- 第74回 発表準備、抄録・発表要旨の作成
- 第75回 修士論文審査後の論文修正、提出

#### 【授業及び学修の方法】

院生と指導教員との対面授業を主とするが、途中において、教室全体での討議（リサーチミーティング）をおこない、研究を実施していきます。授業の進行は、個々の研究課題および研究方法により、異なります。データを収集・分析しながら、論文作成を同時に行う場合もあります。

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。指導教員と連絡を取り、状況に応じて、対面・遠隔を使い分けてください。

#### 【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

指導教員に適切に指導を受け、研究実施・論文作成をおこなってください。(300時間)

教科書・参考書等

【教科書】

- ・APA(2010)/前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦訳(2011): APA論文作成マニュアル, 医学書院.
  - ・グレッグ美鈴他編: よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 第2版, 医歯薬出版, 2016.
- その他、各自の研究課題・研究手法に応じて、適宜、指導教員より指示があります。

【参考書 特になし】

オフィスアワー 各指導教員による。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

香川大学大学院医学系研究科（看護学専攻）修士課程では、院生の研究課題に関して、年2回開催される修士論文中間発表会において公開指導を受けること、加えて、医学部倫理委員会に倫理審査申請をおこない、承認を得ることを指導しています。計画的に研究を実施してください。